

## 在院少年の家族関係に関する研究（その2）

～動的家族画（KFD）の分析を通して～

矯正協会附属中央研究所 末永 清  
 浅野 千晶  
 長谷川宜志  
 嶋谷 宗泰  
 市原学園 田島 秀紀\*  
 横浜少年鑑別所 濱井 郁子\*\*

キーワード：動的家族画，親和性，家庭観，親子関係，少年院，在院少年

### 1 はじめに

本研究は、紀要第11号に発表した同じ表題の「研究（その1）」の続報である。目的は少年院に在院している少年の家族関係を多角的に調査し、少年が抱いている家族像を明らかにすることによって、少年院の効果的な処遇に資する基礎資料を得ることにある。

調査内容としては、全国の少年院に在院する調査期間中の少年に対して、家庭観、親和性、親からのしつけ、家庭内経験（被虐待経験、親からしてもらったこと）について質問紙で調査し、加えて家族画を描くことを求めた。

その結果を要約すると、家庭観については、「いごちのよさ」「相互サポート」「社会とのつながり」「家庭への満足度」の4因子が抽出され、両親への親和性については、「親密さ」「同一視欲求」の2因子が抽出された。親からのしつけについて、両親の揃った群はしつけ全般に関心の高さがうかがわれた。被虐待経験については、男子よりも女子の方が多く、親との交流は、男子よりも女子の方が少ないという結果が示された。

本稿では、「研究（その1）」と同時に収集した動的家族画について分析し、各属性及び質問紙調査の結果との関係を考察する。

### 2 目的

本研究の目的は、「はじめに」で述べたとおりであるが、特に家族画を取り入れた目的は、質問紙によるノモセティックな接近方法に加え、投映法といわれる家族画のイデオグラフィックな接近方法を取り入れることで、より綿密な考察が可能になると考えたからである。また、家族画の中でも「動的」家族画を採用したのは、通常の家族画に比べ、より多くの情報が得られると言われている理由による。

### 3 方法

#### (1) 調査対象

「研究（その1）」と同じ調査対象である。すなわち、医療少年院を除く全国48庁に、平成12年9月から12月の間に在院した、調査期間中の少年1,286名（男子1,145名、女子141名）

\*前矯正協会附属中央研究所 \*\* 元矯正協会附属中央研究所

である。

なお、調査期間中の少年を対象としたのは、入院して間もないだけに、入院前の親や家族に対するイメージを表現しやすいであろうと考えたことによる。

## (2) 調査方法

### ア 実施場所と時間制限

調査期間の個室で、時間を制限せず描かせる方法で実施した。

### イ 教示

調査票の末尾に画用紙を添付し、「あなたも含めて家族の人達が何かをしているところの絵を、画用紙に描いてください。漫画をまねた絵や人の手足を一本の線で描いたような絵ではなく、そして人物全体を描くようにしてください。」との教示を付けた。また、職員には、少年が調査票を提出してきた際に「どの順番でだれを描いたのか」について質問し、最終的にはその内容を直接画用紙に記入するよう依頼した。

### ウ 用具

画用紙のサイズはA4版(29.7×20.0mm)として、12色の色鉛筆を使用させた。

## (3) 分析方法

### ア 分析項目

分析項目については、小栗の研究に使われている分析項目を基準とし、それに検討を加えて、本研究の分析項目を作成した。本研究で使用した分析項目及びその定義については、表1・図1に示したとおりである。

収集できた1,241枚の動的家族画を15分析項目について判定した(表1の分析項目の欄参照)。

- ① 描かれた人物等
- ② 描画順序
- ③ 大きさの順位
- ④ 本人像からの距離
- ⑤ 本人像の表情
- ⑥ 人物が描かれている位置
- ⑦ 本人像の配置
- ⑧ 人物像のタイプ
- ⑨ 人物の動き(共同)

図1 人物位置及び本人像配置の区分について

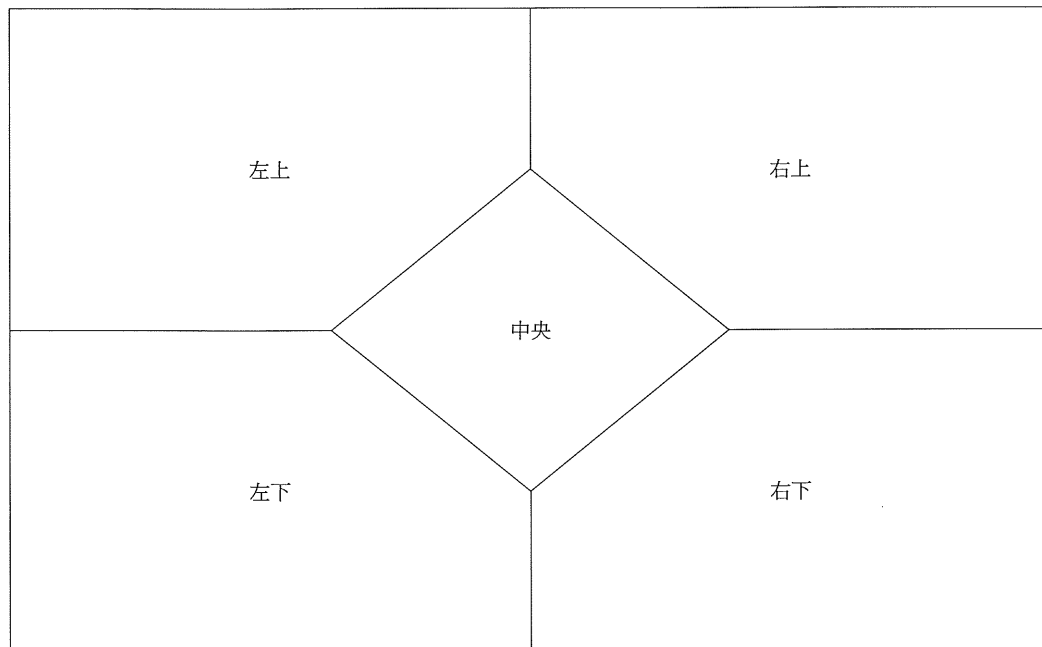


表1 動的家族画の分析項目及びその定義

整理番号	分析項目	細項目	定義
1	描かれた人物等	本人	1…あり 2…なし
2		父	
3		母	
4		兄弟姉妹	
5		祖父母	
6		その他(人)	
7		その他(動物)	
8	描画順序	最初に描かれた人物	1…本人 2…父 3…母 4…兄弟姉妹 5…祖父母 6…その他の人・動物
9		最後に描かれた人物	
10	大きさ順位	最大に描かれた人物	1…本人 2…父 3…母 4…兄弟姉妹 5…祖父母 6…その他の人・動物 7…ほぼ同じ大きさ
11		最小に描かれた人物	
12	本人像からの距離	最も近くに描かれた人物	1…父 2…母 3…兄弟姉妹 4…祖父母 5…その他 6…ほぼ同じ距離
13		最も遠くに描かれた人物	
14	本人像の表情	本人・表情	1…快 2…不快 3…特定できず 4…顔が描かれていない 5…うしろ向き
15		人物が描かれている位置	1…左上 2…右上 3…左下 4…右下 5…中央 6…特定できず 図1参照
16	本人像の配置	本人・位置	1…左上 2…右上 3…左下 4…右下 5…中央 6…特定できず 図1参照
17		人物像のタイプ	1…全身型 2…半身型 3…辺縁切断型 4…混合型(1+2) 5…混合型(1+3) 6…混合型(2+3) 7…顔・首のみ
18	人物の動き(共同)	人物・動き	1…全員が同一 2…2人以上が同一 3…全員がバラバラな動き 4…ひとりのみ(動きあり) 5…動きなし
19		絵の面積	1…大(1/2以上) 2…中(1/2~1/4) 3…小(1/4以下)
20	色彩	絵・面積	1…黒一色 2…1色(黒以外) 3…2~4色以下 4…5色以上
21		使用した色	1…あり 2…なし
22	絵の型	不自然な色彩	1…人物並列型 2…テーマ型 3…分類不能型
23		テーマ内容	1…食事 2…団らん・TV視聴 3…戸外の娯楽・旅行 4…スポーツ 5…その他のテーマ 6…特定できず
24	場所	場所	1…室内 2…戸外 3…自然 4…場所の描写なし 5…その他(車内)
		空白の顔	
		後ろ姿	
		抽象化	
		鳥かん図	
		区分	
		包囲	
25	特殊描画	辺縁が地面になっている	1…あり 2…なし(ひとつでも該当すれば、「あり」と分類)
		非常に大きい(10×2[cm])	
		非常に小さい(4×2[cm])	
26	人物以外の具体的物数	事物数(人以外)	1…なし 2…1個 3…2~5個 4…6~10個 5…10個以上 (同一カテゴリの場合一つに数える。)

表2 判定にあたっての留意事項

整理番号	補足定義
7	動物には魚を含む。
10, 11	明らかに大きいもの・小さいものをチェックする。大きさの差がわずかなものは「7 ほぼ同じ大きさ」とする。
12, 13	明らかに大きいもの・小さいものをチェックする。本人の周囲に人物が複数いる場合で、その距離の差がわずかなときは「11 ほぼ同じ距離」とする。
15	複数の人物が描かれている場合、その人物像の全体のまとまりがどこに描かれているかをチェックする。まとまりの3/4ぐらいが、それぞれの領域（例えば、右上とか左下とか）に入っていればよい。（図1参照）
17	人物像がふとん、家具等の物でかくれているときも「2 半身型」にする。頭、足、体の一部が用紙の端で切れているときは、3 辺縁切断型をチェックする。 (上半身+テーパー+足) のように全身の一部が物によって隠れている場合は、全身とする。
18	①一人が別の方向を向いているも、その他全員が一つのテーマでまとまっていると見られれば、「1 全員が同一」をチェックする。 ②記念写真型は、撮影する人物がいたりカメラがあったりする場合を除いて、「5 動きなし」とする。 ③多少手が曲がったりしていても、単に立っているだけというのは、はっきりした意志が認められない限り、「5 動きなし」とする。
18, 23	④二つ以上に分かれている場合は、本人が所属している場面を評定する。
23	バーベキューは「1 食事」でなくて、「3 戸外の娯楽・旅行」に分類する。
25	対象が背景となっている場合には含まない。 鳥かん図～真上ないし少し斜め上から見下ろした特異な構図である。典型的な構図は、食卓やコタツの周りに人物の頭部のみ又は上半身が描かれる。
26	区分～丸・四角・不定形などの線によって、それぞれ区分し、孤立化した描画を示す。区分している線の左右に人が入っているものを区分として採用する（海岸線は区分とする。）。 塗ってあるもの（例えば、雲・空・海など）は、一つのカテゴリと数える。

表3 保護者の態様別人員

保護者	男子			女子			合計
	短期	長期	計	短期	長期	計	
実父母	N 291 (57.1)	294 (46.6)	585 (51.3)	20 (37.7)	26 (29.9)	46 (39.0)	631 (50.1)
実父	N 39 (7.6)	64 (10.1)	103 (9.0)	7 (13.2)	8 (9.2)	15 (12.7)	118 (9.4)
実母	N 130 (25.5)	195 (30.9)	325 (28.5)	13 (24.5)	14 (40.2)	27 (22.9)	352 (28.0)
義父母	N 2 (0.3)	2 (0.2)	2 (1.1)	2 (1.7)	2 (0.3)	2 (1.7)	4 (3.2)
実父義母	N 7 (1.4)	14 (2.2)	21 (1.8)	3 (5.7)	8 (12.3)	11 (9.3)	32 (2.5)
義父実母	N 31 (6.1)	41 (6.5)	72 (6.3)	5 (9.4)	2 (3.1)	7 (5.9)	79 (6.3)
他の親族	N 8 (1.6)	17 (2.7)	25 (2.2)	4 (7.5)	1 (1.5)	5 (4.2)	30 (2.4)
施設	N 3 (0.6)	3 (0.5)	6 (0.5)	1 (1.5)	1 (0.8)	1 (0.8)	7 (0.6)
その他	N 1 (0.2)	1 (0.2)	2 (0.2)	1 (4.6)	3 (3.4)	4 (3.4)	6 (0.5)
合計	N 510 (100)	631 (100)	1141 (100)	53 (100)	65 (100)	118 (100)	1259 (100)

注) 無回答は除く。

- ⑩ 絵の面積
- ⑪ 色彩
- ⑫ 絵の型
- ⑬ 場所
- ⑭ 特殊描画
- ⑮ 人物以外の具体的事物数

イ 判定方法

判定の客観性を担保するために、判定に迷うケースについては、3人の共同研究者による合議によって判定した。

なお、判定にあたって留意する点を項目毎に決めた。表2「判定にあたっての留意事項」を参照されたい。

4 結果

調査対象少年の属性のうち、「性別」「性別と短期・長期別」「性別と保護者態様別」「性別と父母に対する親和性」「性別と家庭観」の5つの角度から分析を進めた。また、「性別」「性別と短期・長期別」「性別と保護者態様別」の分析の結果、それぞれの群において有意差

が得られた項目が描かれている描画を巻末資料に掲載しているもので、合わせて参照されたい。

保護者の態様別人員は、「研究（その1）」表10と同じであるが、便宜上再録して表3とする。実父母、実父、実母以外は実数が少ないため、義父母とその他の保護者を一括して「義父母等」とした。

親和性と家庭観については、「研究（その1）」を参照されたい。ちなみに親和性とは、少年が両親に対してどのような親しみの気持ちや態度を持っているかであり、親和性尺度の得点の高低によって、親和性の強弱を測定したものである。また、家庭観については、少年が自らの家庭を十分に機能していると認識し、肯定的にとらえているか否を、家庭観尺度得点の高低によって測定したものである。

なお、以下では描かれた人物の出現率については「描画率」と表現し、有意差が見られた項目についてののみ「高い」「低い」と記述している。

## (1) 性別で見た結果

## ア 描かれた人物等

描画の中にどのような人物がいかなる出現率で描かれているかを見たのが表4である。

まず男女別に各分析項目の描画率についてクロス集計し、 $\chi^2$ 検定を行い、有意差が見られた項目について残差分析を実施した。その結果、本人像、その他(動物)像で有意差があった。

本人像について、男子は「あり」で描画率が高く、女子は「なし」で高くなっている。その他(動物)像について、男子は「なし」

で描画率が高く、女子は「あり」で高くなっている。

ちなみに有意差は見られなかったが、男女共に父、母、兄弟姉妹は70%台~80%台の高い率で描かれている。祖父母、その他(人)(動物)については少なくなっている。

なお、兄、弟、姉、妹、祖父、祖母、その他の人と動物は別々に扱っても、描画率が低く意味のある結果は得られないため、これ以後はまとめて分析することとした。

## イ 描画順序(最初に描かれた人物)

家族画を描くにあたって最初にどのような人物像を描くかを見たのが表5である。

表4 描かれた人物(性別)

		男子	女子	合計	検定結果	
本人	あり	度数 (%)	1107 (98.4)	125 (94.7)	1232 (98.0)	P=0.011 f*
		調整済み残差	▲ [2.9]	▼ [-2.9]		
	なし	度数 (%)	18 (1.6)	7 (5.3)	25 (2.0)	
		調整済み残差	▼ [-2.9]	▲ [2.9]		
父	あり	度数 (%)	837 (74.4)	93 (70.5)	930 (74.0)	$\chi^2(1)=0.955$
	なし	度数 (%)	288 (25.6)	39 (29.5)	327 (26.0)	
母	あり	度数 (%)	975 (86.7)	109 (82.6)	1084 (86.2)	$\chi^2(1)=1.666$
	なし	度数 (%)	150 (13.3)	23 (17.4)	173 (13.8)	
兄弟姉妹	あり	度数 (%)	900 (80.3)	99 (75.6)	999 (79.8)	$\chi^2(1)=1.616$
	なし	度数 (%)	221 (19.7)	32 (24.4)	253 (20.2)	
祖父母	あり	度数 (%)	124 (11.0)	15 (11.4)	139 (11.1)	$\chi^2(1)=0.014$
	なし	度数 (%)	1001 (89.0)	117 (88.6)	1118 (88.9)	
その他(人)	あり	度数 (%)	83 (7.4)	13 (9.8)	96 (7.6)	$\chi^2(1)=1.022$
	なし	度数 (%)	1042 (92.6)	119 (90.2)	1161 (92.4)	
その他(動物)	あり	度数 (%)	94 (8.3)	22 (16.7)	116 (9.2)	$\chi^2(1)=9.767^{**}$
		調整済み残差	▼ [-3.1]	▲ [3.1]		
	なし	度数 (%)	1032 (91.7)	110 (83.3)	1142 (90.8)	
		調整済み残差	▲ [3.1]	▼ [-3.1]		

注1) 無回答は除く。

注2) \*は5%、\*\*は1%水準未満で有意差があることを示す。

注3) 残差分析の結果、▲は期待値より有意に高いこと、▼は有意に低いことを示す。(5%水準)

注4) P値の「f」はフィッシャーの直接確率検定によることを示す。

表5 最初に描かれた人物(性別)

		男子	女子	合計	検定結果
本人	度数	316	31	347	$\chi^2(5) = 15.161^*$
	(%)	(28.5)	(24.8)	(28.1)	
	調整済み残差	[0.9]	[-0.9]		
父	度数	415	31	446	
	(%)	(37.5)	(24.8)	(36.2)	
	調整済み残差	▲ [2.8]	▼ [-2.8]		
母	度数	207	38	245	
	(%)	(18.7)	(30.4)	(19.9)	
	調整済み残差	▼ [-3.1]	▲ [3.1]		
兄弟姉妹	度数	125	19	144	
	(%)	(11.3)	(15.2)	(11.7)	
	調整済み残差	[-1.3]	[1.3]		
祖父母	度数	27	3	30	
	(%)	(2.4)	(2.4)	(2.4)	
	調整済み残差	[0.0]	[0.0]		
その他 人物・動物	度数	18	3	21	
	(%)	(1.6)	(2.4)	(1.7)	
	調整済み残差	[-0.6]	[0.6]		

注1) 無回答は除く。

注2) \*は5%水準未満で有意差があることを示す。

注3) 残差分析の結果, ▲は期待値より有意に高いこと, ▼は有意に低いことを示す。  
(5%水準)

表6 最後に描かれた人物(性別)

		男子	女子	合計	検定結果
本人	度数	356	49	405	$\chi^2(5) = 8.698$
	(%)	(32.2)	(39.2)	(33.0)	
父	度数	119	19	138	
	(%)	(10.8)	(15.2)	(11.2)	
母	度数	200	18	218	
	(%)	(18.1)	(14.4)	(17.7)	
兄弟姉妹	度数	354	28	382	
	(%)	(32.1)	(22.4)	(31.1)	
祖父母	度数	39	5	44	
	(%)	(3.5)	(4.0)	(3.6)	
その他 人物・動物	度数	36	6	42	
	(%)	(3.3)	(4.8)	(3.4)	

注) 無回答は除く。

表7 最大に描かれた人物(性別)

		男子	女子	合計	検定結果
本人	度数	71	5	76	P=0.072 m
	(%)	(6.3)	(3.9)	(6.1)	
父	度数	101	9	110	
	(%)	(9.0)	(7.0)	(8.8)	
母	度数	50	11	61	
	(%)	(4.5)	(8.5)	(4.9)	
兄弟姉妹	度数	27	1	28	
	(%)	(2.4)	(0.8)	(2.2)	
祖父母	度数	3	0	3	
	(%)	(0.3)	—	(0.2)	
その他 人物・動物	度数	3	2	5	
	(%)	(0.3)	(0.2)	(0.4)	
ほぼ同じ 大きさ	度数	867	101	968	
	(%)	(77.3)	(78.3)	(77.4)	

注1) 無回答は除く。

注2) P値の「m」はモンテカルロ法によることを示す。

残差分析の結果では、父親像について、男子は描画率が高く、女子は低い。母親像については、男子は低く、女子は高い。単純に描画率を順番に並べると、男子では

父親像37.5%、本人像28.5%、母親像18.7%、兄弟姉妹像11.3%、祖父母像2.4%、その他1.6%、となっている。女子では、母親像30.4%、父親像と本人像24.8%、兄弟姉妹像

表8 最小に描かれた人物(性別)

		男子	女子	合計	検定結果
本人	度数	62	11	73	P=0.170 m
	(%)	(5.5)	(8.5)	(5.8)	
父	度数	15	4	19	
	(%)	(1.3)	(3.1)	(1.5)	
母	度数	44	4	48	
	(%)	(3.9)	(3.1)	(3.8)	
兄弟姉妹	度数	165	24	189	
	(%)	(14.7)	(18.6)	(15.1)	
祖父母	度数	17	0	17	
	(%)	(1.5)	—	(1.4)	
その他 人物・動物	度数	38	6	44	
	(%)	(3.4)	(4.7)	(3.5)	
ほぼ同じ 大きさ	度数	781	80	861	
	(%)	(69.6)	(62.0)	(68.8)	

注1) 無回答は除く。

注2) P値の「m」はモンテカルロ法によることを示す。

表9 最も近くに描かれた人物(性別)

		男子	女子	合計	検定結果
父	度数	122	4	126	$\chi^2(5) = 9.804$
	(%)	(12.1)	(3.5)	(11.2)	
母	度数	127	20	147	
	(%)	(12.6)	(17.7)	(13.1)	
兄弟姉妹	度数	228	28	256	
	(%)	(22.6)	(24.8)	(22.8)	
祖父母	度数	15	1	16	
	(%)	(1.5)	(0.9)	(1.4)	
その他	度数	23	4	27	
	(%)	(2.3)	(3.5)	(2.4)	
ほぼ同じ	度数	496	56	552	
	(%)	(49.1)	(49.6)	(49.1)	

注) 無回答は除く。

表10 最も遠くに描かれた人物(性別)

		男子	女子	合計	検定結果
父	度数	151	24	175	$\chi^2(5) = 3.807$
	(%)	(14.9)	(21.1)	(15.5)	
母	度数	154	17	171	
	(%)	(15.2)	(14.9)	(15.2)	
兄弟姉妹	度数	223	22	245	
	(%)	(22.0)	(19.3)	(21.7)	
祖父母	度数	24	4	28	
	(%)	(2.4)	(3.5)	(2.5)	
その他	度数	21	2	23	
	(%)	(2.1)	(1.8)	(2.0)	
ほぼ同じ	度数	440	45	485	
	(%)	(43.4)	(39.5)	(43.0)	

注) 無回答は除く。



15.2%、祖父母像とその他2.4%の順となっている。

ウ 描画順序（最後に描かれた人物）

$\chi^2$ 検定の結果、有意差は見られなかった。最後に描かれた率について単純に順位を見ると、男子では本人像32.2%、兄弟姉妹像32.1%、母親像18.1%、父親像10.8%、祖父母像3.5%、その他像3.3%の順になっている（表6参照）。女子では、本人像39.2%、兄弟姉妹像22.4%、父親像15.2%、母親像14.4%、その他像4.8%、祖父母像4.0%の順になっている。

エ 大きさ順位（最大に描かれた人物）

$\chi^2$ 検定の結果、有意差は見られなかった。男女共に人物像をほぼ同じ大きさで描く傾向（77.3%、78.3%）がある。その他の像を最も大きく描く率は少ないが、男子では父親像、本人像、母親像、兄弟姉妹像の順になっている。女子では母親像、父親像、本人像、兄弟姉妹像となっている（表7参照）。

オ 大きさ順位（最小に描かれた人物）

$\chi^2$ 検定の結果では有意差は得られなかったが、男女共に兄弟姉妹像を小さく描く傾向（14.7%、18.6%）が見られる（表8参照）。

カ 本人像からの距離（最も近くに描かれた人物）

表 11 本人像の表情(性別)

		男子	女子	合計	検定結果
快	度数	458	72	530	$\chi^2(4) = 14.589^{**}$
	(%)	(41.4)	(57.6)	(43.0)	
	調整済み残差	▼ [-3.5]	▲ [3.5]		
不快	度数	37	1	38	
	(%)	(3.3)	(0.8)	(3.1)	
	調整済み残差	[1.6]	[-1.6]		
特定できず	度数	442	35	477	
	(%)	(39.9)	(28.0)	(38.7)	
	調整済み残差	▲ [2.6]	▼ [-2.6]		
顔が描かれていない	度数	26	1	27	
	(%)	(2.3)	(0.8)	(2.2)	
	調整済み残差	[1.1]	[-1.1]		
うしろ向き	度数	144	16	160	
	(%)	(13.0)	(12.8)	(13.0)	
	調整済み残差	[0.1]	[-0.1]		

注1) 無回答は除く。

注2) \*\*は1%水準未満で有意差があることを示す。

注3) 残差分析の結果、▲は期待値より有意に高いこと、▼は有意に低いことを示す。(5%水準)

表 12 人物が描かれている位置(性別)

		男子	女子	合計	検定結果
左上	度数	9	3	12	P=0.058 m
	(%)	(0.8)	(2.3)	(1.0)	
右上	度数	5	3	8	
	(%)	(0.4)	(2.3)	(0.6)	
左下	度数	24	2	26	
	(%)	(2.1)	(1.5)	(2.1)	
右下	度数	23	1	24	
	(%)	(2.0)	(0.8)	(1.9)	
中央	度数	339	35	374	
	(%)	(30.1)	(26.3)	(29.7)	
特定できず	度数	726	89	815	
	(%)	(64.5)	(66.9)	(64.7)	

注1) 無回答は除く。

注2) P値の「m」はモンテカルロ法によることを示す。

$\chi^2$ 検定の結果では有意差は見られなかった。男女共に本人像に対してほぼ同じ距離に他の人物像を描く傾向(49.1%, 49.6%)と、兄弟姉妹像を最も近くに描く傾向(22.6%, 24.8%)が見られる(表9参照)。

キ 本人像からの距離(最も遠くに描かれた人物)

$\chi^2$ 検定の結果、有意差のある項目はなかった。男子では兄弟姉妹像、母親像、父親像の順で遠く描き、女子では父親像、兄弟姉妹像、母親像の順で遠くなっている(表10参照)。

ク 本人像の表情

$\chi^2$ 検定及び残差分析の結果、男子で「特定できず」が高く、「快」が低かった。また、女子ではその逆であり、「快」が高く、「特定で

きず」が低くなっている(表11参照)。

ケ 人物が描かれている位置

$\chi^2$ 検定の結果、有意な差は見られなかった。男女共に描かれている人物の位置として、特定の位置を判断できない描画(64.5%, 66.9%)が多いが、その中でも中央に位置している描画(30.1%, 26.3%)が多い(表12参照)。

コ 本人像の配置

$\chi^2$ 検定の結果では有意差のある項目は見られなかった。男女共に、本人像を用紙のどの位置に描いているかを特定できない描画(41.1%, 50.4%)が多い傾向がある。特定できた描画のうち、最も多かったのは中央であり、男子27.9%, 女子23.2%となっている

表 13 本人像の配置(性別)

		男子	女子	合計	検定結果
左上	度数	55	5	60	$\chi^2(5) = 8.290$
	(%)	(5.0)	(4.0)	(4.9)	
右上	度数	56	7	63	
	(%)	(5.1)	(5.6)	(5.1)	
左下	度数	123	6	129	
	(%)	(11.1)	(4.8)	(10.5)	
右下	度数	109	15	124	
	(%)	(9.8)	(12.0)	(10.1)	
中央	度数	309	29	338	
	(%)	(27.9)	(23.2)	(27.4)	
特定できず	度数	455	63	518	
	(%)	(41.1)	(50.4)	(42.0)	

注) 無回答は除く。

表 14 人物像のタイプ(性別)

		男子	女子	合計	検定結果
全身型	度数	605	65	670	$\chi^2(6) = 9.245$
	(%)	(53.7)	(48.9)	(53.2)	
半身型	度数	130	16	146	
	(%)	(11.5)	(12.0)	(11.6)	
辺遠切断型	度数	29	0	29	
	(%)	(2.6)	(0.0)	(2.3)	
混合型 [1 + 2]	度数	245	30	275	
	(%)	(21.7)	(22.6)	(21.8)	
混合型 [1 + 3]	度数	70	11	81	
	(%)	(6.2)	(8.3)	(6.4)	
混合型 [2 + 3]	度数	41	10	51	
	(%)	(3.6)	(7.5)	(4.0)	
顔・首のみ	度数	7	1	8	
	(%)	(0.6)	(0.8)	(0.6)	

注) 無回答は除く。

（表13参照）。

サ 人物像のタイプ

$\chi^2$ 検定の結果では有意差は見られない。男女共に全身型(53.7%, 48.9%), 混合型[1+2](21.7%, 22.6%), 半身型(11.5%, 12.0%)の順で多く描く傾向がある（表14参照）。

なお、分類の基準については、表2を参照されたい。

シ 人物の動き（共同）

$\chi^2$ 検定及び残差分析の結果、女子の「ひとりのみで動きのある」描画を描く率が有意に高かった。描かれている人物全員が同一の動きをしている描画が男女共に多い傾向（78.3%, 78.2%）がある（表15参照）。

ス 絵の面積

描画が用紙の面積をどのぐらい占めている

表 15 人物の動き(共同)(性別)

		男子	女子	合計	検定結果
全員が同一	度数	882	104	986	
	(%)	(78.3)	(78.2)	(78.3)	
	調整済み残差	[0.0]	[0.0]		
2人以上が同一	度数	127	9	136	
	(%)	(11.3)	(6.8)	(10.8)	
	調整済み残差	[1.6]	[-1.6]		
全員がバラバラな動き	度数	31	7	38	$\chi^2(4) = 14.605^{**}$
	(%)	(2.8)	(5.3)	(3.0)	
	調整済み残差	[-1.6]	[1.6]		
ひとりのみ(動きあり)	度数	3	3	6	
	(%)	(0.3)	(2.3)	(0.5)	
	調整済み残差	▼ [-3.2]	▲ [3.2]		
動きなし	度数	83	10	93	
	(%)	(7.4)	(7.5)	(7.4)	
	調整済み残差	[-0.1]	[0.1]		

注1) 無回答は除く。

注2) \*\*は1%水準未満で有意差があることを示す。

注3) 残差分析の結果、▲は期待値より有意に高いこと、▼は有意に低いことを示す。(5%水準)

表 16 絵の面積(性別)

		男子	女子	合計	検定結果
大(1/2以上)	度数	906	109	1015	$\chi^2(2) = 2.948$
	(%)	(80.4)	(82.0)	(80.6)	
中(1/2~1/4)	度数	187	17	204	
	(%)	(16.6)	(12.8)	(16.2)	
小(1/4以下)	度数	34	7	41	
	(%)	(3.0)	(5.3)	(3.3)	

注) 無回答は除く。

表 17 使用した色(性別)

		男子	女子	合計	検定結果
黒1色	度数	50	4	54	P = 0.541 m
	(%)	(4.4)	(3.0)	(4.3)	
1色(黒以外)	度数	11	0	11	
	(%)	(1.0)	—	(0.9)	
2~4色以下	度数	41	4	45	
	(%)	(3.6)	(3.0)	(3.6)	
5色以上	度数	1025	125	1150	
	(%)	(90.9)	(94.0)	(91.3)	

注1) 無回答は除く。

注2) P値の「m」はモンテカルロ法によることを示す。

かを調べると、 $\chi^2$ 検定の結果からは有意な差は見いだせなかった。1/2以上の広い面積を使って描かれているものが、男女共に多い傾向があり(80.4%, 82.0%), 1/2~1/4のやや小さいものが男子で16.6%, 女子で12.8%となっている(表16参照)。

#### セ 色彩 (使用した色)

$\chi^2$ 検定の結果では有意差はなかった。黒一色で描いているもの(男子4.4%, 女子3.0%)

もあるが、5色以上を使っている描画が男女共に(90.9%, 94.0%)多い(表17参照)。

#### ソ 色彩 (不自然な色彩)

$\chi^2$ 検定の結果では有意差はなかった(表18参照)。不自然な色使いをした描画は、女子では全く見られず、男子でもほとんどなかった(0.5%)。

#### タ 絵の型 (絵の型)

$\chi^2$ 検定の結果では有意差はなかった。単に

表 18 不自然な色彩(性別)

		男子	女子	合計	検定結果
あり	度数	6	0	6	P=0.636 f
	(%)	(0.5)	—	(0.5)	
なし	度数	1121	133	1254	
	(%)	(99.5)	(100.0)	(99.5)	

注1) 無回答は除く。

注2) P値の「f」はフィッシャーの直接確率検定によることを示す。

表 19 絵の型(性別)

		男子	女子	合計	検定結果
人物並列型	度数	121	14	135	$\chi^2(2)=1.199$
	(%)	(10.7)	(10.5)	(10.7)	
テーマ型	度数	947	109	1056	
	(%)	(84.0)	(82.0)	(83.8)	
分類不能型	度数	59	10	69	
	(%)	(5.2)	(7.5)	(5.5)	

注) 無回答は除く。

表 20 絵のテーマ内容(性別)

		男子	女子	合計	検定結果
食事	度数	254	28	282	$\chi^2(5)=11.502^*$
	(%)	(22.5)	(21.1)	(22.4)	
	調整済み残差	[0.4]	[-0.4]		
団らん・TV視聴	度数	115	10	125	
	(%)	(10.2)	(7.5)	(9.9)	
	調整済み残差	[1.0]	[-1.0]		
戸外の娯楽・旅行	度数	298	36	334	
	(%)	(26.4)	(27.1)	(26.5)	
	調整済み残差	[-0.2]	[0.2]		
スポーツ	度数	97	3	100	
	(%)	(8.6)	(2.3)	(7.9)	
	調整済み残差	▲ [2.6]	▼ [-2.6]		
その他のテーマ	度数	191	33	224	
	(%)	(16.9)	(24.8)	(17.8)	
	調整済み残差	▼ [-2.2]	▲ [2.2]		
特定できず	度数	172	23	195	
	(%)	(15.3)	(17.3)	(15.5)	
	調整済み残差	[-0.6]	[0.6]		

注1) 無回答は除く。

注2) \*は5%水準未満で有意差があることを示す。

注3) 残差分析の結果、▲は期待値より有意に高いこと、▼は有意に低いことを示す。(5%水準)

並列的に描いた画より、何らかのテーマを持って描いているものが多い傾向（84.0%、82.0%）が見られた（表19参照）。

チ 絵の型（テーマ内容）

$\chi^2$ 検定及び残差分析の結果では、男子は「スポーツ」が高く、女子は「その他のテーマ」が有意に高い。有意差はないが男女共に戸外・旅行、食事、団らん・TV視聴の順で多くなっている（表20参照）。

ツ 場所

$\chi^2$ 検定の結果では有意差はなかった（表21参照）。その他と場所の描写のないケースを除くと、男女共に室内と室外（戸外に自然の中を加える）がほぼ40%ずつとなっている。

テ 特殊描画

表1に示したように特殊な描画として9種類の描画を取り上げたが、特殊な描画は少ないことから、9項目をまとめて特殊描画の「あり」「なし」として分析を行った（表22参照）。分散分析及び残差分析の結果、男子は「あり」

表 21 場所(性別)

		男子	女子	合計	検定結果
室内	度数	481	58	539	$\chi^2(4) = 0.873$
	(%)	(42.7)	(43.6)	(42.8)	
戸外	度数	233	28	261	
	(%)	(20.7)	(21.1)	(20.7)	
自然	度数	230	23	253	
	(%)	(20.4)	(17.3)	(20.1)	
場所の描写なし	度数	150	20	170	
	(%)	(13.3)	(15.0)	(13.5)	
その他(車内)	度数	33	4	37	
	(%)	(2.9)	(3.0)	(2.9)	

注) 無回答は除く。

表 22 特殊描画(性別)

		男子	女子	合計	検定結果
あり	度数	575	54	629	$\chi^2(1) = 7.139^{**}$
	(%)	(50.2)	(38.3)	(48.9)	
	調整済み残差	▲ [2.7]	▼ [-2.7]		
なし	度数	570	87	657	
	(%)	(49.8)	(61.7)	(51.1)	
	調整済み残差	▼ [-2.7]	▲ [2.7]		

注1) 無回答は除く。

注2) \*\*は1%水準未満で有意差があることを示す。

注3) 残差分析の結果、▲は期待値より有意に高いこと、▼は有意に低いことを示す。(5%水準)

表 23 人物以外の具体的事物数（同一カテゴリーは一つ）(性別)

		男子	女子	合計	検定結果
なし	度数	71	11	82	$\chi^2(4) = 2.909$
	(%)	(6.3)	(8.3)	(6.5)	
1個	度数	90	15	105	
	(%)	(8.0)	(11.3)	(8.3)	
2～5個	度数	597	65	662	
	(%)	(53.0)	(48.9)	(52.5)	
6～10個	度数	315	37	352	
	(%)	(28.0)	(27.8)	(27.9)	
10個以上	度数	54	5	59	
	(%)	(4.8)	(3.8)	(4.7)	

注) 無回答は除く。

表24 描かれた人物(短期・長期別)

描かれた人物		短期	長期	合計	検定結果
本人	あり	度数 (%) 497 (99.2)	610 (97.8)	1107 (98.4)	$\chi^2(1) = 3.686$
	なし	4 (0.8)	14 (2.2)	18 (1.6)	
父	あり	度数 (%) 392 (78.2)	445 (71.3)	837 (74.4)	$\chi^2(1) = 7.006^{**}$
		調整済み残差 ▲ [2.6]	▼ [-2.6]		
	なし	度数 (%) 109 (21.8)	179 (28.7)	288 (25.6)	
母	あり	度数 (%) 449 (89.6)	526 (84.3)	975 (86.7)	$\chi^2(1) = 6.821^{**}$
		調整済み残差 ▲ [2.6]	▼ [-2.6]		
	なし	度数 (%) 52 (10.4)	98 (15.7)	150 (13.3)	
兄弟姉妹	あり	度数 (%) 410 (82.2)	490 (78.8)	900 (80.3)	$\chi^2(1) = 1.616$
	なし	89 (17.8)	132 (21.2)	221 (19.7)	
	調整済み残差 ▼ [-2.6]	▲ [2.6]			
祖父母	あり	度数 (%) 58 (11.6)	66 (10.6)	124 (11.0)	$\chi^2(1) = 0.283$
	なし	443 (88.4)	558 (89.4)	1001 (89.0)	
その他(人)	あり	度数 (%) 44 (8.8)	39 (6.3)	83 (7.4)	$\chi^2(1) = 2.608$
	なし	457 (91.2)	585 (93.8)	1042 (92.6)	
その他(動物)	あり	度数 (%) 39 (7.8)	55 (8.8)	94 (8.3)	$\chi^2(1) = 0.397$
	なし	463 (92.2)	569 (91.2)	1032 (91.7)	
本人	あり	度数 (%) 50 (98.0)	75 (92.6)	125 (94.7)	P=0.248 f
	なし	1 (2.0)	6 (7.4)	7 (5.3)	
父	あり	度数 (%) 38 (74.5)	55 (67.9)	93 (70.5)	$\chi^2(1) = 0.657$
	なし	13 (25.5)	26 (32.1)	39 (29.5)	
母	あり	度数 (%) 41 (80.4)	68 (84.0)	109 (82.6)	$\chi^2(1) = 0.275$
	なし	10 (19.6)	13 (16.0)	23 (17.4)	
兄弟姉妹	あり	度数 (%) 37 (72.5)	62 (77.5)	99 (75.6)	$\chi^2(1) = 0.414$
	なし	14 (27.5)	18 (22.5)	32 (24.4)	
祖父母	あり	度数 (%) 6 (11.8)	9 (11.1)	15 (11.4)	$\chi^2(1) = 0.013$
	なし	45 (88.2)	72 (88.9)	117 (88.6)	
その他(人)	あり	度数 (%) 2 (3.9)	11 (13.6)	13 (9.8)	$\chi^2(1) = 3.288$
	なし	49 (96.1)	70 (86.4)	119 (90.2)	
その他(動物)	あり	度数 (%) 9 (17.6)	13 (16.0)	22 (16.7)	$\chi^2(1) = 0.058$
	なし	42 (82.4)	68 (84.0)	110 (83.3)	

注1) 無回答は除く。

注2) \*\*は1%水準未満で有意差があることを示す。

注3) 残差分析の結果, ▲は期待値より有意に高いこと, ▼は有意に低いことを示す。(5%水準)

注4) P値の「f」はフィッシャーの直接確率検定によることを示す。

が高く、女子は「なし」で高くなっている。  
ト 人物以外の具体的事物数  
人物以外に描かれている物品の数を調べた。 $\chi^2$ 検定の結果では有意差みられなかったが、男女共に同じ傾向を示していた。すなわ

ち、何らかの物品が描かれている数は、2～5個(53.0%，48.9%)が最も多く、以下6～10個(28.0%，27.8%)，1個(8.0%，11.3%)10個以上(4.8%，3.8%)の順になっている。何も無い描画は少なく、男子6.3%，女子8.3%

表 25 人物の動き（共同）（短期・長期別）

		短期	長期	合計	検定結果	
男子	全員が同一	度数 (%)	385 (76.7)	497 (79.6)	882 (78.3)	$\chi^2(4) = 5.758$
	2人以上が同一	度数 (%)	66 (13.1)	61 (9.8)	127 (11.3)	
	全員がバラバラな動き	度数 (%)	15 (3.0)	16 (2.6)	31 (2.8)	
	ひとりのみ (動きあり)	度数 (%)	0 (0.0)	3 (0.5)	3 (0.3)	
	動きなし	度数 (%)	36 (7.2)	47 (7.5)	83 (7.4)	
	調整済み残差					
女子	全員が同一	度数 (%)	42 (80.8)	62 (76.5)	104 (78.2)	P = 0.021 m*
	調整済み残差		[0.6]	[-0.6]		
	2人以上が同一	度数 (%)	6 (11.5)	3 (3.7)	9 (6.8)	
	調整済み残差		[1.8]	[-1.8]		
	全員がバラバラな動き	度数 (%)	2 (3.8)	5 (6.2)	7 (5.3)	
	調整済み残差		[-0.6]	[0.6]		
ひとりのみ (動きあり)	度数 (%)	2 (3.8)	1 (6.2)	3 (5.3)		
調整済み残差		[1.0]	[-1.0]			
動きなし	度数 (%)	0 (0.0)	10 (12.3)	10 (7.5)		
調整済み残差		▼ [-2.6]	▲ [2.6]			

注 1) 無回答は除く。

注 2) \*は5%水準未満で有意差があることを示す。

注 3) 残差分析の結果、▲は期待値より有意に高いこと、▼は有意に低いことを示す。(5%水準)

注 4) P値の「m」はモンテカルロ法によることを示す。

表 26 絵の型（短期・長期別）

		短期	長期	合計	検定結果	
男子	人物並列型	度数 (%)	44 (8.8)	77 (12.3)	121 (10.7)	$\chi^2(2) = 3.725$
	テーマ型	度数 (%)	432 (86.1)	515 (82.4)	947 (84.0)	
	分類不能型	度数 (%)	26 (5.2)	33 (5.3)	59 (5.2)	
女子	人物並列型	度数 (%)	2 (3.8)	12 (14.8)	14 (10.5)	$\chi^2(2) = 6.268^*$
	調整済み残差		▼ [-2.0]	▲ [2.0]		
	テーマ型	度数 (%)	48 (92.3)	61 (75.3)	109 (82.0)	
	調整済み残差		▲ [2.5]	▼ [-2.5]		
	分類不能型	度数 (%)	2 (3.8)	8 (9.9)	10 (7.5)	
	調整済み残差		[-1.3]	[1.3]		

注 1) 無回答は除く。

注 2) \*5%水準未満で有意差があることを示す。

注 3) 残差分析の結果、▲は期待値より有意に高いこと、▼は有意に低いことを示す。(5%水準)

となっている(表23参照)。

## (2) 性別と短期・長期別のクロス結果

性別と短期・長期別をクロス集計し、 $\chi^2$ 検定を行った。また、有意差が見られたものについては残差分析を加えた。その結果、描かれた人物等、人物の動き、絵の型、テーマ内容のみに有意差が認められた。

### ア 描かれた人物等

男子では、父親像、母親像の項目で有意差が見られた。いずれも、短期の少年は父母像を描く率が高く、長期少年は父母像を描く率が低いという結果になっている。

女子においては、すべての項目において、有意な差は得られなかった(表24参照)。

### イ 人物の動き(共同)

女子においてのみ有意差が見られた。残差分析の結果、長期少年において「動きなし」の絵を描く率が高い(表25参照)。

### ウ 絵の型(絵の型)

女子においてのみ有意差が見られた。残差分析の結果から、短期少年は「人物並列型」の描画率が低く、「テーマ型」が高い。逆に長期少年は「人物並列型」の絵を描く率が高く、「テーマ型」が低くなっている(表26参照)。

### エ 絵の型(テーマ内容)

男子においてのみ有意差が見られた。残差分析を行ったところ、短期少年は「戸外の娯楽・旅行」といったテーマの絵を描く率が高く、長期少年においては、反対に低いという結果になっている(表27参照)。

## (3) 性別と保護者別のクロス結果

保護者の態様を実父母、実父、実母、義父母等の4区分とし、男女別に描かれた人物の各項目とクロス集計した。また、有意差が見られたものについては残差分析を加えた。以下、有意差のある項目のみについて結果を見ることとする。

### ア 描かれた人物等

表27 テーマ内容(短期・長期別)

		短期	長期	合計	検定結果	
男子	食事	度数 (%)	111 (22.1)	143 (22.9)	254 (22.5)	$\chi^2(5) = 12.153^*$
	団らん・TV視聴	度数 (%)	60 (12.0)	55 (8.8)	115 (10.2)	
	戸外の娯楽・旅行	度数 (%)	149 (29.7)	149 (23.8)	298 (26.4)	
	調整済み残差	▲ [2.2]	▼ [-2.2]			
	スポーツ	度数 (%)	43 (8.6)	54 (8.6)	97 (8.6)	
	その他のテーマ	度数 (%)	74 (14.7)	117 (18.7)	191 (16.9)	
	特定できず	度数 (%)	65 (12.9)	107 (17.1)	172 (15.3)	
女子	食事	度数 (%)	14 (26.9)	14 (17.3)	28 (21.1)	$P = 0.103 m$
	団らん・TV視聴	度数 (%)	4 (7.7)	6 (7.4)	10 (7.5)	
	戸外の娯楽・旅行	度数 (%)	14 (26.9)	22 (27.2)	36 (27.1)	
	スポーツ	度数 (%)	3 (5.8)	0 -	3 (2.3)	
	その他のテーマ	度数 (%)	12 (23.1)	21 (25.9)	33 (24.8)	
	特定できず	度数 (%)	5 (9.6)	18 (22.2)	23 (17.3)	

注1) 無回答は除く。

注2) \*は5%水準未満で有意差があることを示す。

注3) 残差分析の結果、▲は期待値より有意に高いこと、▼は有意に低いことを示す。(5%水準)

注4) P値の「m」はモンテカルロ法によることを示す。



表 28 描かれた人物(保護者別)

		実父母	実父	実母	義父母等	合計	検定結果
本人	あり	569 (51.9)	99 (9.0)	313 (28.6)	115 (10.5)	1096 (100.0)	P = 0.680 m
	なし	7 (38.9)	2 (11.1)	6 (33.3)	3 (16.7)	18 (100.0)	
父	あり	558 (67.2) ▲[17.1]	98 (11.8) ▲[5.4]	85 (10.2) ▼[-23.2]	89 (10.7) [0.2]	830 (100.0)	$\chi^2(3) = 563.457^{***}$
	なし	18 (6.3) ▼[-17.7]	3 (1.1) ▼[-5.4]	234 (82.4) ▲[23.2]	29 (10.2) [-0.2]	284 (100.0)	
母	あり	534 (55.2) ▲[6.0]	35 (3.6) ▼[-16.3]	309 (31.9) ▲[6.2]	90 (9.3) ▼[-3.6]	968 (100.0)	$\chi^2(3) = 298.677^{***}$
	なし	42 (28.8) ▼[-6.0]	66 (45.2) ▲[16.3]	10 (6.8) ▼[-6.2]	28 (19.2) ▲[3.6]	146 (100.0)	
兄弟姉妹	あり	480 (53.9) ▲[2.9]	73 (8.2) [-1.9]	249 (27.9) [-1.0]	89 (10.0) [-1.4]	891 (100.0)	$\chi^2(3) = 9.941^*$
	なし	94 (42.9) ▼[-2.9]	27 (12.3) [1.9]	69 (31.5) [1.0]	29 (13.2) [1.4]	219 (100.0)	
祖父母	あり	58 (46.8)	18 (14.5)	33 (26.6)	15 (12.1)	124 (100.0)	$\chi^2(3) = 5.724$
	なし	518 (52.3)	83 (8.4)	286 (28.9)	103 (10.4)	990 (100.0)	
その他(人)	あり	28 (34.1) ▼[-3.3]	8 (9.8) [0.2]	25 (30.5) [0.4]	21 (25.6) ▲[4.6]	82 (100.0)	$\chi^2(3) = 24.276^{***}$
	なし	548 (53.1) ▲[3.3]	93 (9.0) [-0.2]	294 (28.5) [-0.4]	97 (9.4) ▼[-4.6]	1032 (100.0)	
その他(動物)	あり	49 (53.8)	10 (11.0)	18 (19.8)	14 (15.4)	91 (100.0)	$\chi^2(3) = 5.405$
	なし	527 (51.5)	91 (8.9)	302 (29.5)	104 (10.2)	1024 (100.0)	
本人	あり	43 (35.5)	13 (10.7)	43 (35.5)	22 (18.2)	121 (100.0)	P = 0.880 m
	なし	1 (16.7)	1 (16.7)	3 (50.0)	1 (16.7)	16 (100.0)	
父	あり	43 (48.3) ▲[5.0]	13 (14.6) ▲[2.0]	16 (18.0) ▼[-6.5]	17 (19.1) [0.4]	89 (100.0)	$\chi^2(3) = 46.997^{***}$
	なし	1 (2.6) ▼[-5.0]	1 (2.6) ▼[-2.0]	30 (78.9) ▲[6.5]	6 (15.8) [-0.4]	38 (100.0)	
母	あり	44 (41.1) ▲[3.5]	4 (50.0) ▼[-6.1]	44 (10.0) ▲[2.7]	15 (40.0) ▼[-2.8]	107 (100.0)	P = 0.000 m***
	なし	0 (24.1) ▼[-3.5]	10 (15.7) ▲[6.1]	2 (10.4) ▼[-2.7]	8 (15.7) ▲[2.8]	20 (100.0)	
兄弟姉妹	あり	37 (38.1)	8 (8.2)	35 (36.1)	17 (17.5)	97 (100.0)	$\chi^2(3) = 3.148$
	なし	7 (24.1)	5 (17.2)	11 (37.9)	6 (20.7)	29 (100.0)	
祖父母	あり	4 (26.7)	1 (6.7)	6 (40.0)	4 (26.7)	15 (100.0)	P = 0.745 m
	なし	40 (35.7)	13 (11.6)	40 (35.7)	19 (17.0)	112 (100.0)	
その他(人)	あり	2 (16.7) [-1.4]	1 (8.3) [-0.3]	3 (25.0) [-0.8]	6 (50.0) ▲[3.0]	12 (100.0)	P = 0.025 m*
	なし	42 (36.5) [1.4]	13 (11.3) [0.3]	43 (37.4) [0.8]	17 (14.8) ▼[-3.0]	115 (100.0)	
その他(動物)	あり	11 (52.4)	2 (9.5)	6 (28.6)	2 (9.5)	21 (100.0)	P = 0.296 m
	なし	33 (31.1)	12 (11.3)	40 (37.7)	21 (19.8)	106 (100.0)	

注1) 無回答は除く。

注2) \*は5%，\*\*\*は0.1%水準未満で有意差があることを示す。

注3) 残差分析の結果，▲は期待値より有意に高いこと，▼は有意に低いことを示す。(5%水準)

注4) P値の「m」はモンテカルロ法によることを示す。

男子では、保護者が実父母の場合、父親像、母親像、兄弟姉妹像を描く率が高く、その他（人）像を描く率は低い。保護者が実父の場合は、父親像で高く、母親像で低い。保護者が実母の場合は、実父の場合と逆であり、父親像で低く、母親像で高くなっている。保護者が義父母等の場合には、母親像を描く率が低く、その他（人）像を描く率が高い。

女子では、保護者が実父母の場合に父親像と母親像を描く率が高い。保護者が実父の場合には、父親像を描く率が高く、母親像を描く率が低い。保護者が実母の場合には父親像を描く率が低く、母親像を描く率が高い。保護者が義父母等では、母親像を描く率は低く、

その他（人）像を描く率が高い。

#### イ 描画順序（最初に描かれた人物）

表29は、それぞれ描かれた人物について、保護者の態様別に最初に描いた率を調べたものである。

有意差があったのは男子のみであり、保護者が実父母である場合に、父親像を最初に描く率が高く、母親像とその他（人・動物）像は低い。実父である場合には、父親像が高く、母親像は低い。実母である場合には、本人像、母親像、兄弟姉妹像が高く、父親像が低い。義父母等である場合には、祖父母像、その他（人・動物）像が高い。

#### ウ 描画順序（最後に描かれた人物）

表 29 最初に描かれた人物(保護者別)

	実父母	実父	実母	義父母等	合計		
本人	148 (47.4) [-1.8]	26 (8.3) [-0.6]	103 (33.0) ▲ [2.1]	35 (11.2) [0.4]	312 (100.0)	$\chi^2(15) = 215.028^{***}$	
父	288 (70.1) ▲ [9.4]	55 (13.4) ▲ [3.7]	33 (8.0) ▼ [-11.6]	35 (8.5) [-1.8]	411 (100.0)		
男 母	62 (30.2) ▼ [-6.8]	8 (3.9) ▼ [-2.9]	117 (57.1) ▲ [10.1]	18 (8.8) [-1.0]	205 (100.0)		
子 兄弟姉妹	55 (44.4) [-1.7]	6 (4.8) [-1.8]	47 (37.9) ▲ [2.5]	16 (12.9) [0.9]	124 (100.0)		
祖父母	10 (37.0) [-1.5]	4 (14.8) [1.0]	7 (25.9) [-0.3]	6 (22.2) ▲ [2.0]	27 (100.0)		
その他の人物・ 動物	4 (22.2) ▼ [-2.5]	2 (11.1) [0.3]	5 (27.8) [-0.1]	7 (38.9) ▲ [3.9]	18 (100.0)		
本人	12 (40.0)	2 (6.7)	12 (40.0)	4 (13.3)	30 (100.0)		P = 0.104 m
父	13 (43.3)	5 (16.7)	6 (20.0)	6 (20.0)	30 (100.0)		
女 母	8 (22.2)	3 (8.3)	19 (52.8)	6 (16.7)	36 (100.0)		
子 兄弟姉妹	10 (52.6)	1 (5.3)	5 (26.3)	3 (15.8)	19 (100.0)		
祖父母	1 (33.3)	0 -	1 (33.3)	1 (33.3)	3 (100.0)		
その他の人物・ 動物	0 -	0 -	0 -	2 (100.0)	2 (100.0)		

注 1) 無回答は除く。

注 2) \*\*\*は 0.1%水準未満で有意差があることを示す。

注 3) 残差分析の結果、▲は期待値より有意に高いこと、▼は有意に低いことを示す。(5%水準)

注 4) P値の「m」はモンテカルロ法によることを示す。

表30は、それぞれ描かれた人物について、保護者の態様別で最後に描いた率を調べたものである。

有意差があったのは男子のみである。保護者が実父である場合に父親像を最後に描く率が高く、母親像が低い。実母である場合は、母親像を最後に描く率が高く、父親像は低い。

エ 大きさ順位（最大に描かれた人物）

表31は、それぞれ描かれた人物について、保護者の態様別に最も大きく描いた率を調べたものである。

有意差があったのは男子のみである。保護者が実父母である場合は、本人像を最大に描く率が低い。実父である場合は、父親像が高

く、母親像で低い。実母の場合は、母親像を最大に描く率が高く、父親像は低い。義父母等の場合には、兄弟姉妹像を大きく描く率が高い。

オ 本人像からの距離（最も近くに描かれた人物）

表32は、それぞれ描かれた人物について、保護者の態様別に本人像に最も近く描いた率を調べたものである。

有意差のある項目が見られたのは男子のみであった。保護者が実父母である場合は、父親像を近くに描く率が高く、その他（人物・動物）像を描く率が低い。実父である場合は母親像を近くに描く率が低く、実母である場

表 30 最後に描かれた人物(保護者別)

	実父母	実父	実母	義父母等	合計	
本人	174 (49.7) [-0.8]	33 (9.4) [0.2]	101 (28.9) [0.1]	42 (12.0) [1.0]	350 (100.0)	
父	68 (57.6) [1.4]	21 (17.8) ▲[3.4]	15 (12.7) ▼[-4.1]	14 (11.9) [0.4]	118 (100.0)	
男 母	95 (48.0) [-1.1]	7 (3.5) ▼[-3.0]	79 (39.9) ▲[3.9]	17 (8.6) [-1.1]	198 (100.0)	$\chi^2(15) = 44.543^{***}$
子 兄弟姉妹	189 (53.7) [1.0]	32 (9.1) [0.0]	100 (28.4) [-0.1]	31 (8.8) [-1.4]	352 (100.0)	
祖父母	20 (51.3) [0.0]	4 (10.3) [0.2]	8 (20.5) [-1.1]	7 (17.9) [1.5]	39 (100.0)	
その他の人物・動物	17 (47.2) [-0.5]	3 (8.3) [-0.2]	10 (27.8) [-0.1]	6 (16.7) [1.2]	36 (100.0)	
本人	17 (35.4)	4 (8.3)	18 (37.5)	9 (18.8)	48 (100.0)	P = 0.526 m
父	5 (27.8)	4 (22.2)	5 (27.8)	4 (22.2)	18 (100.0)	
女 母	10 (55.6)	0 -	7 (38.9)	1 (5.6)	18 (100.0)	
子 兄弟姉妹	9 (33.3)	2 (7.4)	10 (37.0)	6 (22.2)	27 (100.0)	
祖父母	2 (40.0)	0 -	1 (20.0)	2 (40.0)	5 (100.0)	
その他の人物・動物	1 (25.0)	1 (25.0)	2 (50.0)	0 -	4 (100.0)	

注1) 無回答は除く。

注2) \*\*\*は0.1%水準未満で有意差があることを示す。

注3) 残差分析の結果、▲は期待値より有意に高いこと、▼は有意に低いことを示す。(5%水準)

注4) P値の「m」はモンテカルロ法によることを示す。

合は逆に父親像を近くに描く率が低い。義父母の場合にはその他（人物・動物）像を描く率が高くなっている。

カ 本人像からの距離（最も遠くに描かれた人物）

表33は、前項とは反対に、本人像から最も遠くに描かれた人物について調べたものである。

男女共に有意差のある項目が認められた。男子で保護者が実父母である場合は、父親像を最も遠くに描く率が高く、兄弟姉妹像やその他（人物・動物）像を描く率が低くなっている。実母の場合では、兄弟姉妹像を最も遠

くに描く率が高く、父親像を描く率が低い。義父母の場合は、祖父母像やその他（人物・動物）像を遠くに描く率が高い。

女子では、保護者が実父母の場合、父親像を遠くに描く率が高く、実母の場合は、父親像を描く率が低く、兄弟姉妹像を描く率が高い。義父母の場合は、祖父母像やその他（人物・動物）像を遠くに描く率が高い。

キ 本人像の表情から、人物以外の具体的事物数まで

本人像の表情から人物以外の具体的事物数までの分析項目（表1参照）のうち、有意な差が見られた項目は、使用した色(表34)、不

表 31 最大に描かれた人物(保護者別)

	実父母	実父	実母	義父母等	合計	
本人	26 (38.2)	6 (8.8)	26 (38.2)	10 (14.7)	68 (100.0)	
	▼ [-2.3]	[-0.1]	[1.8]	[1.1]		
父	58 (57.4)	17 (16.8)	12 (11.9)	14 (13.9)	101 (100.0)	
	[1.2]	▲ [2.8]	▼ [-3.9]	[1.1]		
母	22 (44.0)	0 (48.0)	24 (8.0)	4 (100.0)	50	
	[-1.1]	▼ [-2.3]	▲ [3.1]	[-0.6]		
兄弟姉妹	9 (33.3)	1 (3.7)	11 (40.7)	6 (22.2)	27 (100.0)	P = 0.000 m***
	[-1.9]	[-1.0]	[1.4]	▲ [2.0]		
祖父母	1 (33.3)	0 -	1 (33.3)	1 (33.3)	3 (100.0)	
	[-0.6]	[-0.5]	[0.2]	[1.3]		
その他の人物・動物	0 -	0 -	2 (66.7)	1 (33.3)	3 (100.0)	
	[-1.8]	[-0.5]	[1.5]	[1.3]		
ほぼ同じ大きさ	457 (53.2)	77 (9.0)	243 (28.3)	82 (9.5)	859 (100.0)	
	▲ [2.0]	[-0.3]	[-0.6]	▼ [-2.1]		
本人	1 (20.0)	1 (20.0)	3 (60.0)	0 -	5 (100.0)	
	4 (50.0)	1 (12.5)	1 (12.5)	2 (25.0)	8 (100.0)	
父	2 (20.0)	1 (10.0)	6 (60.0)	1 (10.0)	10 (100.0)	P = 0.571 m
	0 -	0 -	1 (100.0)	0 -	1 (100.0)	
兄弟姉妹	0 -	0 -	0 -	1 (100.0)	1 (100.0)	
	0 -	0 -	0 -	1 (100.0)	1 (100.0)	
その他の人物・動物	37 (37.4)	10 (10.1)	34 (34.3)	18 (18.2)	99 (100.0)	

注 1) 無回答は除く。

注 2) \*\*\*は0.1%水準未満で有意差があることを示す。

注 3) 残差分析の結果、▲は期待値より有意に高いこと、▼は有意に低いことを示す。(5%水準)

注 4) P値の「m」はモンテカルロ法によることを示す。

自然な色(表35)、場所(表36)の3項目であった。

使用した色とは、描画に使用した色を黒一色、その他の色の一色、2～4色、5色以上に分けて調べたものである。女子で、保護者が実父母の場合に黒一色で描く率が高い。

また、不自然な色については、描画に不自然な色使いが「ある」か「ない」かを調べたものである。男子で、保護者が実母の場合に不自然な色使いをする率が高い。

描かれた場所を見ると、男子で、保護者が実父の場合に、戸外を描く率が高く、室内を描く率が低い。実母の場合に、室内を描く率が高い。

(4) 性別と両親に対する親和性のクロス結果  
 父母それぞれに対する親和性尺度得点と動的家族画における各項目との関係を調べた。

なお、以下については、有意差が見られたものについてのみ結果を示すこととする。

ア 描かれた人物等

① 父親に対する親和性との関係

表37は、父親に対する親和性尺度得点を描かれた人物等の有無ごとにt検定を実施した結果である。

男女共に、父親像を描いた群が、描かなかった群よりも親和性尺度得点が高い結果となっている。

表 32 最も近くに描かれた人物(保護者別)

	実父母	実父	実母	義父母等	合計		
父	82 (67.8) ▲ [3.2]	11 (9.1) [0.5]	10 (8.3) ▼ [-5.0]	18 (14.9) [1.6]	121 (100.0)	P = 0.000 m***	
母	69 (54.8) [0.2]	1 (0.8) ▼ [-3.2]	40 (31.7) [1.2]	16 (12.7) [0.8]	126 (100.0)		
男 兄弟姉妹	121 (54.0) [0.0]	19 (8.5) [0.4]	62 (27.7) [0.1]	22 (9.8) [-0.4]	224 (100.0)		
子 祖父母	5 (33.3) [-1.6]	3 (20.0) [1.8]	5 (33.3) [0.5]	2 (13.3) [0.2]	15 (100.0)		
その他の人物・動物	7 (30.4) ▼ [-2.3]	2 (8.7) [0.1]	8 (34.8) [0.8]	6 (26.1) ▲ [2.4]	23 (100.0)		
ほぼ同じ大きさ	258 (52.3) [-1.1]	43 (8.7) [1.0]	150 (30.4) ▲ [2.1]	42 (8.5) ▼ [-2.1]	493 (100.0)		
父	1 (25.0)	1 (25.0)	2 (50.0)	0 -	4 (100.0)		P = 0.135 m
母	7 (35.0)	0 -	9 (45.0)	4 (20.0)	20 (100.0)		
女 兄弟姉妹	12 (44.4)	2 (7.4)	9 (33.3)	4 (14.8)	27 (100.0)		
子 祖父母	0 -	1 (100.0)	0 -	0 -	1 (100.0)		
その他の人物・動物	0 -	0 -	1 (33.3)	2 (66.7)	3 (100.0)		
ほぼ同じ大きさ	22 (39.3)	6 (10.7)	17 (30.4)	11 (19.6)	56 (100.0)		

注1) 無回答は除く。

注2) \*\*\*は0.1%水準未満で有意差があることを示す。

注3) 残差分析の結果、▲は期待値より有意に高いこと、▼は有意に低いことを示す。(5%水準)

注4) P値の「m」はモンテカルロ法によることを示す。

② 母親に対する親和性との関係

表38は、母親に対する親和性尺度得点を描かれた人物等の有無ごとにt検定を実施した結果である。

男女共に母親像を描いた群の方が、親和性尺度得点が高い結果となっている。母親に対する親和性尺度得点と父親像の有無の関係を見ると、男子では、父親像を描いている群の方が、描いていない群よりも親和性尺度得点が高いが、女子では、父親像を描いていない群の方が、描いている群よりも高い結果と

なっている。

イ 描画順序

① 父親に対する親和性との関係

表39は、男子について、最初及び最後に描かれた人物ごとに父親に対する親和性尺度得点の平均値と一元配置の分散分析結果をまとめたものである。

最初に描かれた人物については有意差が見られた。多重比較 (LSD 法) の結果、父親像を最初に描いた群は、本人像、母親像、兄弟姉妹像を最初に描いた群よりも、父親に対す

表 33 最も遠くに描かれた人物(保護者別)

	実父母	実父	実母	義父母等	合計		
父	102 (68.5) ▲ [3.8]	17 (11.4) [1.7]	10 (6.7) ▼ [-6.2]	20 (13.4) [1.2]	149 (100.0)	$\chi^2(15) = 68.172^{***}$	
母	81 (52.9) [-0.3]	10 (6.5) [-0.7]	47 (30.7) [1.0]	15 (9.8) [-0.4]	153 (100.0)		
男 兄弟姉妹	105 (47.5) ▼ [-2.2]	16 (7.2) [-0.4]	77 (34.8) ▲ [2.8]	23 (10.4) [-0.1]	221 (100.0)		
子 祖父母	9 (37.5) [-1.6]	3 (12.5) [0.9]	4 (16.7) [-1.2]	8 (33.3) ▲ [3.6]	24 (100.0)		
その他の人物・動物	6 (30.0) ▼ [-2.2]	1 (5.0) [-0.5]	7 (35.0) [0.8]	6 (30.0) ▲ [2.8]	20 (100.0)		
ほぼ同じ大きさ	239 (54.7) [0.4]	32 (7.3) [-0.6]	131 (30.0) [1.5]	35 (8.0) ▼ [-2.4]	437 (100.0)		
父	16 (66.7) ▲ [3.3]	2 (8.3) [-0.1]	4 (16.7) ▼ [-2.0]	2 (8.3) [-1.6]	24 (100.0)		P = 0.003 m**
母	7 (41.2) [0.3]	0 - [-1.4]	8 (47.1) [1.2]	2 (11.8) [-0.9]	17 (100.0)		
女 兄弟姉妹	5 (22.7) [-1.6]	1 (4.5) [-0.8]	13 (59.1) ▲ [2.8]	3 (13.6) [-0.8]	22 (100.0)		
子 祖父母	0 - [-1.6]	0 - [-0.6]	1 (25.0) [-0.4]	3 (75.0) ▲ [2.8]	4 (100.0)		
その他の人物・動物	0 - [-0.8]	0 - [-0.3]	0 - [-0.7]	1 (100.0) ▲ [2.0]	1 (100.0)		
ほぼ同じ大きさ	14 (31.8) [-1.0]	7 (15.9) ▲ [2.1]	12 (27.3) [-1.2]	11 (25.0) [1.1]	44 (100.0)		

注 1) 無回答は除く。

注 2) \*\*は1%, \*\*\*は0.1%水準未満で有意差があることを示す。

注 3) 残差分析の結果, ▲は期待値より有意に高いこと, ▼は有意に低いことを示す。(5%水準)

注 4) P値の「m」はモンテカルロ法によることを示す。

る親和性尺度得点が高いことが分かる。

最後に描かれた人物についても、有意差が見られた。多重比較（LSD法）の結果、本人像を最後に描いた群は、父親像、母親像を最後に書いた群よりも父親に対する親和性尺度得点が高かった。

祖父母像、兄弟姉妹像及びその他像を最後に描いた群は、父親像を最後に描いた群よりも父親に対する親和性尺度得点が高い。また、祖父母像、その他像を最後に描いた群は、母親像を最後に描いた群よりも父親に対する親和性尺度得点が高いことが分かる。

② 母親に対する親和性との関係

表40は、男子について、「最後に描かれた人物」ごとに母親に対する親和性尺度得点の平均値を算出し、一元配置の分散分析を行った結果をまとめたものである。

多重比較（LSD法）の結果、本人像を最後に描いた群は、父親像、母親像、兄弟姉妹像、祖父母像を最後に描いた群よりも、母親に対する親和性尺度得点が高いことが分かる。

ウ 大きさ順位

① 父親に対する親和性との関係

表41は、最大及び最小に描かれた人物ごとに父親に対する親和性尺度得点の平均値と一元配置の分散分析結果を男子についてまとめ

表 34 使用した色(保護者別)

	実父母	実父	実母	義父母等	合計		
男	黒一色	28 (58.3)	5 (10.4)	10 (20.8)	5 (10.4)	48 (100.0)	$\chi^2(9) = 5.233$
	1色(黒以外)	4 (36.4)	2 (18.2)	4 (36.4)	1 (9.1)	11 (100.0)	
	2～4色以下	22 (53.7)	5 (12.2)	12 (29.3)	2 (4.9)	41 (100.0)	
	5色以上	523 (51.5)	89 (8.8)	294 (28.9)	110 (10.8)	1016 (100.0)	
女	黒一色	4 (100.0) ▲ [2.8]	0 — [-0.7]	0 — [-1.5]	0 — [-1.0]	4 (100.0)	P = 0.045 m*
	2～4色以下	0 — [-1.5]	1 (25.0) [0.9]	1 (25.0) [-0.5]	2 (50.0) [1.7]	4 (100.0)	
	5色以上	40 (33.3) [-1.0]	13 (10.8) [-0.1]	46 (38.3) [1.5]	21 (17.5) [-0.5]	120 (100.0)	

注1) 無回答は除く。

注2) \*は5%水準未満で有意差があることを示す。

注3) 残差分析の結果、▲は期待値より有意に高いこと、▼は有意に低いことを示す。(5%水準)

注4) P値の「m」はモンテカルロ法によることを示す。

表 35 不自然な色(保護者別)

	実父母	実父	実母	義父母等	合計		
男	あり	1 (16.7) [-1.7]	0 — [-0.8]	5 (83.3) ▲ [3.0]	0 — [-0.8]	6 (100.0)	P = 0.046 m*
	なし	576 (51.9) [1.7]	101 (9.1) [0.8]	315 (28.4) ▼ [-3.0]	118 (10.6) [0.8]	1110 (100.0)	
女子	なし	44 (34.4)	14 (10.9)	47 (36.7)	23 (18.0)	128 (100.0)	

注1) 無回答は除く。

注2) \*は5%水準未満で有意差があることを示す。

注3) 残差分析の結果、▲は期待値より有意に高いこと、▼は有意に低いことを示す。(5%水準)

注4) P値の「m」はモンテカルロ法によることを示す。

たものである。

最大に描かれた人物について有意差が見られた。多重比較 (LSD 法) の結果、父親像を最大に描いた群、ほぼ同じ群は、本人像、母親像、兄弟姉妹像及び祖父母像を最大に描いた群よりも父親に対する親和性尺度得点が高い。

最小に描かれた人物についても有意差が見られた。多重比較 (LSD 法) の結果、ほぼ同じ群は、兄弟姉妹像を最小に描いた群よりも父親に対する親和性尺度得点が高いことが分かる。

#### エ 本人像からの距離

##### ① 父親に対する親和性との関係

表42は、男子について、本人像からの距離ごとに父親に対する親和性尺度得点の平均値と一元配置の分散分析結果をまとめたものである。

最も近くに描かれた人物について有意差が見られた。多重比較 (LSD 法) の結果、父親像を最も近くに描いた群は、母親像、兄弟姉妹像、その他像、ほぼ同じ距離群よりも、父親に対する親和性尺度得点が高いこと、ほぼ同じ距離群は、兄弟姉妹を最も近くに描いた群よりも、父親に対する親和性尺度得点が高いことが分かる。

##### ② 母親に対する親和性との関係

表43は、男子について、本人像からの距離ごとに母親に対する親和性尺度得点をまとめたものである。

最も近くに描かれた人物について有意差が見られた。多重比較 (LSD 法) の結果、父親像を最も近くに描いた群はその他の群よりも母親に対する親和性尺度得点が高く、また、母親像を最も近くに描いた群は、兄弟姉妹像、その他 (人・動物) 像、ほぼ同じ距離群より

表 36 場所(保護者別)

	実父母	実父	実母	義父母等	合計			
男	室内	237 (49.6) [-1.2]	31 (6.5) ▼ [-2.6]	157 (32.8) ▲ [2.7]	53 (11.1) [0.5]	478 (100.0)	$\chi^2(12) = 22.817^*$	
	戸外	119 (51.7) [0.0]	32 (13.9) ▲ [2.9]	55 (23.9) [-1.8]	24 (10.4) [-0.1]	230 (100.0)		
	自然	124 (54.6) [1.0]	17 (7.5) [-0.9]	58 (25.6) [-1.2]	28 (12.3) [1.0]	227 (100.0)		
	場所の描写なし	81 (54.7) [0.8]	15 (10.1) [0.5]	41 (27.7) [-0.3]	11 (7.4) [-1.3]	148 (100.0)		
	その他 (車内)	16 (48.5) [-0.4]	6 (18.2) [1.9]	9 (27.3) [-0.2]	2 (6.1) [-0.9]	33 (100.0)		
	室内	20 (35.1)	7 (12.3)	16 (28.1)	14 (24.6)	57 (100.0)		P = 0.210 m
	戸外	6 (22.2)	1 (3.7)	14 (51.9)	6 (22.2)	27 (100.0)		
	自然	11 (50.0)	2 (9.1)	7 (31.8)	2 (9.1)	22 (100.0)		
	場所の描写なし	6 (33.3)	3 (16.7)	9 (50.0)	0 -	18 (100.0)		
	その他 (車内)	1 (25.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	4 (100.0)		

注 1) 無回答は除く。

注 2) \*は5%水準未満で有意差があることを示す。

注 3) 残差分析の結果、▲は期待値より有意に高いこと、▼は有意に低いことを示す。(5%水準)

注 4) P値の「m」はモンテカルロ法によることを示す。



も親和性尺度得点の高いことが分かる。

高い事が分かる。

オ 本人像の表情

② 母親に対する親和性との関係

① 父親に対する親和性との関係

表45は、男子について、本人の表情ごとに母親に対する親和性尺度得点をまとめたものである。

表44は、本人の表情ごとに父親に対する親和性尺度得点の平均値と一元配置の分散分析結果を男子についてまとめたものである。なお、本人が描画の中に存在しないと判断された25ケースについては分析から除外した。

本人の表情について有意差が見られた。多重比較（LSD法）の結果、本人の表情が快である群は、不快群、表情を特定できない群、顔がかかれてない群、うしろ向きである群よりも、母親に対する親和性尺度得点が高い事が分かる。

本人の表情について有意差が見られた。多重比較（LSD法）の結果、本人の表情が快である群は、表情を特定できない群、うしろ向き群よりも、父親に対する親和性尺度得点は

カ 本人像の配置

表 37 父親に対する親和性尺度の t 検定（描かれた人物等）

		男子		t 値	女子		t 値
		あり	なし		あり	なし	
本人	M	48.11	44.05	1.662	45.38	51.60	-1.112
	SD	11.30	14.37		12.38	7.40	
父	M	49.97	40.76	11.917***	47.40	40.00	2.826**
	SD	10.15	12.70		11.55	12.95	
母	M	48.09	47.67	0.444	44.81	49.84	-1.547
	SD	11.33	11.63		12.61	9.43	
兄弟姉妹	M	47.99	48.13	-0.169	44.86	48.48	-1.342
	SD	11.49	10.89		12.87	9.86	
祖父母	M	48.77	47.95	0.75	43.86	45.90	-0.583
	SD	11.68	11.34		13.73	12.08	
その他 (人)	M	48.99	47.95	0.82	48.67	45.29	0.901
	SD	10.57	11.43		10.65	12.42	
その他 (動物)	M	48.89	47.95	0.815	44.41	45.87	-0.450
	SD	11.45	11.36		12.87	12.21	

注1) 無回答は除く。

注2) \*\*は1%, \*\*\*は0.1%水準未満で有意差があることを示す。

表 38 母親に対する親和性尺度の t 検定（描かれた人物等）

		男子		t 値	女子		t 値
		あり	なし		あり	なし	
本人	M	53.10	49.61	1.485	52.43	49.00	0.657
	SD	9.86	10.79		12.26	16.90	
父	M	53.35	52.12	1.805**	51.38	54.43	-1.259*
	SD	9.53	10.81		13.45	9.42	
母	M	53.69	48.32	5.973***	53.62	45.05	2.907*
	SD	9.30	12.44		11.12	16.51	
兄弟姉妹	M	53.28	51.94	1.770*	52.14	52.48	-0.128
	SD	9.63	10.88		12.95	11.01	
祖父母	M	52.55	53.10	-0.573	50.47	52.51	-0.595
	SD	10.50	9.81		8.80	12.87	
その他 (人)	M	52.00	53.12	-0.983	51.25	52.37	-0.296
	SD	10.79	9.80		12.77	12.39	
その他 (動物)	M	53.34	53.01	0.312	49.91	52.76	-0.977
	SD	10.79	9.80		12.77	12.39	

注1) 無回答は除く。

注2) \*は5%, \*\*は1%, \*\*\*は0.1%水準未満で有意差があることを示す。

表 39 父親に対する親和性尺度の分散分析 (描画順序: 男子)

	本人	父	母	兄弟姉妹	祖父母	その他(人 物・動物)	F値・多重比較	
最初に描かれた 人物	N	314	436	211	129	25	21	
	M	45.54	51.50	45.70	46.34	48.92	47.52 F (5) = 14.290***	父>本人, 母, 兄弟姉妹
	SD	11.98	9.47	12.34	11.50	10.87	10.92	
最後に描かれた 人物	N	378	133	194	341	37	39	
	M	49.66	44.32	46.19	48.07	50.41	50.67 F (5) = 6.289***	本人>父, 母 祖父母, 兄弟姉妹, その他>父
	SD	10.88	11.44	11.02	11.73	10.24	11.34	祖父母, その他>母

注1) 無回答は除く。  
注2) \*\*\*は0.1%水準未満で有意差があることを示す。

表 40 母親に対する親和性尺度の分散分析 (描画順序: 男子)

	本人	父	母	兄弟姉妹	祖父母	その他(人 物・動物)	F値・多重比較	
最後に描かれた人物	N	343	116	197	344	39	35	
	M	54.93	50.87	51.92	52.92	50.67	52.57 F (5) = 4.703***	本人>父, 母, 兄弟姉妹, 祖父母
	SD	9.17	10.00	9.66	9.99	11.12	11.58	

注1) 無回答は除く。  
注2) \*\*\*は0.1%水準未満で有意差があることを示す。

表 41 父親に対する親和性尺度の分散分析 (大きさ順位: 男子)

	本人	父	母	兄弟姉妹	祖父母	その他(人 物・動物)	ほぼ同じ 大きさ	F値・多重比較	
最大に描かれた 人物	N	72	103	55	27	3	4	889	
	M	45.46	50.64	43.98	43.56	35.33	41.75	48.41 F (6) = 4.452***	父, ほぼ同じ>本人, 母, 兄弟姉妹, 祖父母
	SD	10.25	10.17	12.68	11.14	20.21	9.11	11.35	
最小に描かれた 人物	N	67	18	48	178	14	41	787	
	M	48.49	47.22	44.48	45.74	50.14	48.44	48.70 F (6) = 2.588*	ほぼ同じ>兄弟姉妹
	SD	11.60	9.80	11.84	12.49	7.67	11.99	11.03	

注1) 無回答は除く。  
注2) \*は5%, \*\*\*は0.1%水準未満で有意差があることを示す。

表42 父親に対する親和性尺度の分散分析（本人像からの距離：男子）

	父	母	兄弟 姉妹	祖父母	その他 (人物・ 動物)	ほぼ 同じ 距離	F値・多重比較
最も近くに 描かれた人 物	N 123	134	238	15	24	506	F(5)=5.023***
	M 52.20	47.21	46.62	49.67	44.54	48.60	父>母, 兄弟姉妹, その他, ほぼ同じ距離
	SD 9.56	11.57	11.87	12.22	11.70	10.97	ほぼ同じ距離>兄弟姉妹

注1) 無回答は除く。

注2) \*\*\*は0.1%水準未満で有意差があることを示す。

表43 母親に対する親和性尺度の分散分析（本人像からの距離：男子）

	父	母	兄弟 姉妹	祖父母	その他 (人物・ 動物)	ほぼ 同じ 距離	F値・多重比較
最も近くに 描かれた人 物	N 121	127	220	13	23	486	F(5)=3.236**
	M 54.37	55.61	52.66	50.15	48.87	53.14	父>その他(人・動物)
	SD 10.83	8.84	9.28	11.70	10.96	9.52	母>兄弟姉妹, その他(人・動物) ほぼ同じ距離

注1) 無回答は除く。

注2) \*\*は1%水準未満で有意差があることを示す。

① 父親に対する親和性との関係

表46は、本人像の配置ごとに父親に対する親和性尺度得点の平均値と一元配置の分散分析結果を男子についてまとめたものである。本人像を特定できないと判断された26ケースは分析から除外している。

本人像の配置について有意差が見られた。多重比較(LSD法)の結果、本人像の配置が右上、右下及び中央の群は、特定できない群よりも、父親に対する親和性尺度得点が高いことが分かる。

② 母親に対する親和性との関係

表47は、本人像の配置ごとに母親に対する親和性尺度得点の平均値と一元配置の分散分析結果を男子についてまとめたものである。

本人像の配置について有意差が見られた。多重比較(LSD法)の結果、本人像の配置が左下の群は、右下及び特定できない群より、また、中央の群は右下の群よりも、それぞれ母親に対する親和性尺度得点が高いことが分かる。

キ 人物の動き(共同)

① 父親に対する親和性との関係

表48は、人物の動き(共同)ごとに父親に

対する親和性尺度得点の平均値と一元配置の分散分析結果を男子についてまとめたものである。

人物の動き(共同)については、有意差が見られた。多重比較(LSD法)の結果、人物の動き(共同)が、全員が同一、2人以上が同一である群は、全員がバラバラな動きである群よりも、父親に対する親和性尺度得点が高いことが分かる。

② 母親に対する親和性との関係

統計的に有意な結果は得られなかった。

ク 絵の面積

① 父親に対する親和性との関係

表49は、絵の面積ごとに父親に対する親和性尺度得点の平均値と一元配置の分散分析結果を男子についてまとめたものである。

絵の面積について有意差が見られた。多重比較(LSD法)の結果、絵の面積(表1参照)が、大及び中である群は、小である群よりも、父親に対する親和性尺度得点が高いことが分かる。

② 母親に対する親和性との関係

表50は、絵の面積ごとに母親に対する親和性尺度得点の平均値と一元配置の分散分析結

果を男子についてまとめたものである。

絵の面積については、有意差が見られた。多重比較 (LSD 法) の結果、絵の面積が、大及び中である群は、小である群よりも、母親に対する親和性尺度得点が高いことが分かる。

#### ケ 絵の型 (テーマ内容)

##### ① 父親に対する親和性との関係

表51は、テーマ内容ごとに父親に対する親和性尺度得点の平均値と一元配置の分散分析結果を男子についてまとめたものである。

テーマ内容については、有意差が見られた。多重比較 (LSD 法) の結果、テーマ内容が、戸外群は、食事群、スポーツ群、その他のテーマ群、特定できない群よりも、父親に対する親和性尺度得点が高いことが分かる。

##### ② 母親に対する親和性との関係

統計的に有意な結果は得られなかった。

#### (5) 性別と家庭観のクロス結果

次に、「研究 (その1)」で作成した家庭観尺度得点を従属変数とし、性別に各描画項目との関連を検討した。その結果、有意差が得

られたものについてのみ、以下に結果を示すこととする (女子では、すべての項目について有意差が見られなかったため、以下の結果は男子のみについて言及しており、表53から表56については、男子のみの結果を掲示している)。

#### ア 描かれた人物等

各人物像の「あり」「なし」ごとに家庭観尺度得点の平均値を算出し、t検定を行った。その結果、男子では、父親像・母親像・兄弟姉妹像において有意差が見られ、そのすべてにおいて、「あり」群が「なし」群よりも、家庭観尺度得点の平均値が高かった (表52参照)。

#### イ 描画順序

表53は、最初・最後に描かれた人物ごとに、家庭観尺度得点の平均値を算出し、一元配置分散分析を行った結果である。

最初に描かれた人物、最後に描かれた人物ともに、男子において有意差が見られた。そこで、それぞれについてLSD法による多重比較を行ったところ、最初に描かれた人物においては、本人像を最初に描いた群が、父親

表 44 父親に対する親和性尺度の分散分析 (本人の表情：男子)

	快	不快	特定 できず	顔が描か れていない	うしろ向き	F値・多重比較
N	490	34	439	26	147	
M	49.58	46.18	46.99	48.04	47.01	F(4)=3.783**
SD	11.01	10.69	11.86	9.77	10.44	快>特定できず, うしろ向き

注1) 無回答は除く。

注2) \*\*は1%水準未満で有意差があることを示す。

表 45 母親に対する親和性尺度の分散分析 (本人の表情：男子)

	快	不快	特定 できず	顔が描か れていない	うしろ向き	F値・多重比較
N	446	34	431	26	139	
M	54.61	50.94	52.42	47.81	51.85	F(4)=6.095***
SD	9.02	10.32	10.41	10.93	9.67	快>不快, 特定できず, 顔が描かれていない, うしろ向き

注1) 無回答は除く。

注2) \*\*\*は0.1%水準未満で有意差があることを示す。

表 46 父親に対する親和性尺度の分散分析 (本人像の配置: 男子)

	左上	右上	左下	右下	中央	特定できず	F 値・多重比較
N	54	59	125	113	305	480	
M	47.06	50.22	49.10	49.92	48.74	46.91	F (5) = 2.565*
S D	12.89	10.91	10.95	10.87	10.90	11.49	右上, 右下, 中央 > 特定できず

注 1) 無回答は除く。

注 2) \*は 5%水準未満で有意差があることを示す。

表 47 母親に対する親和性尺度の分散分析 (本人像の配置: 男子)

	左上	右上	左下	右下	中央	特定できず	F 値・多重比較
N	54	53	120	106	298	445	
M	52.76	54.88	54.58	51.96	54.20	52.06	F (5) = 2.867* 左下 > 右下, 特定できず 中央 > 右下
S D	12.43	8.92	8.91	11.21	8.62	10.19	

注 1) 無回答は除く。

注 2) \*は 5%水準未満で有意差があることを示す。

表 48 父親に対する親和性尺度の分散分析 (人物の動き: 男子)

	全員が同一	2人以上が同一	全員がバラバラな動き	ひとりのみ (動きあり)	動きなし	F 値・多重比較
N	905	129	33	6	87	
M	48.36	48.10	42.39	45.67	46.53	F (4) = 2.675**
S D	11.29	10.63	10.94	11.38	12.78	全員が同一, 2人以上が同一 > 全員がバラバラな動き

注 1) 無回答は除く。

注 2) \*は 5%水準未満で有意差があることを示す。

像, 兄弟姉妹像を最初に描いた群よりも有意に低く, 最後に描かれた人物においては, 父親像を最後に描いた群が本人像, 兄弟姉妹像, 祖父母像を最後に描いた群よりも有意に低いという結果であった。

#### ウ 大きさ順位 (最大に描かれた人物)

表54は, 一元配置分散分析結果並びに LSD 法による多重比較の結果である。祖父母像を最大に描いた者は, 他の人物像を最大に描いた者や, ほぼ同じ大きさに描いた者よりも, 有意に家庭観尺度得点の平均値が低いことが分かった。

#### エ 本人像の表情

表55は, 一元配置分散分析結果並びに LSD 法による多重比較の結果である。本人の表情が「快」の場合, 「不快」「特定できず」に分類された者よりも, 家庭観尺度得点が高いという結果が得られた。

#### オ 本人像の配置

一元配置分散分析結果並びに LSD 法による多重比較を行ったところ, 本人像が「特定できない」場合, 本人像を「左下」「中央」に描いた者よりも, 家庭観尺度得点が高いことが分かった (表56参照)。

なお, 「特定できない」というのは, 本人像

が複数の範囲に同程度にまたがっており, 範囲を特定できないというものである。

## 5 考察

### (1) 性別で見た結果の考察

有意な差のある項目を手がかりとして考察を進める。

#### ア 描かれた人物等

家族画に描かれた人物等の中で, 有意差があったのは本人像とその他 (動物) についてである。

そもそも本人像については, 「他者との関係における自己の家族内での位置とか, 役割認知を伴ったものである (日比; 1986)」と考えられるので, 本人像を描いていない5.3%の女子少年は, 家庭内に自分の存在する場所がないと感じていると考えられようか。

今回の分析では, 個々の人物像の動作については触れていないので, 動作から少年の役割認知や関心の方向などについては考察できなかった。

また, 女子の絵には, 人物以外の動物が多く描かれており, 女子の身の回りを飾る傾向や接触を求める欲求の現れと考えられる。

表 49 父親に対する親和性尺度の分散分析 (絵の面積: 男子)

	大 (1/2 以上)	中 (1/2~1/4)	小 (1/4 以下)	F 値・多重比較
N	939	185	37	
M	48.43	47.29	41.32	F (2) = 7.493**
S D	11.12	11.73	13.58	大, 中 > 小

注 1) 無回答は除く。

注 2) \*\*は 1% 水準未満で有意差があることを示す。

表 50 母親に対する親和性尺度の分散分析 (絵の面積: 男子)

	大 (1/2 以上)	中 (1/2~1/4)	小 (1/4 以下)	F 値・多重比較
N	877	185	34	
M	53.43	52.62	45.65	F (2) = 10.539**
S D	9.45	10.73	12.79	大, 中 > 小

注 1) 無回答は除く。

注 2) \*\*\*は 0.1% 水準未満で有意差があることを示す。

イ 描画順序（最初に描かれた人物）

男子は父親像を最初に描き、女子は母親像を最初に描くという結果は、同性の親をモデルとして成長していることを示唆している。

ウ 本人像の表情

顔の表情はさまざまな感情を表していると考えられるが、男子の描画では顔の表情が特定できないケースが多く、女子では快感情を示すケースが多くなっている。この結果は単純に言えば、女子は明るい感情を抱いていると解釈できるが、そうありたいという願望や外面を飾る傾向などの象徴とも考えられるので、多面的な意味が含まれていると言わなければならない。

エ 人物の動き（共同）

描画に登場する人物間のダイナミックな関係を理解するために、人物がどの様に動いているかを見ることは大切なチェックポイントである。結果は全員が同一の行動をとっている描画が多く、ほとんどの家庭はそれなりのまとまりを持っているといえよう。女子で一人のみの動きが有意に高い結果になっているが、これは家族の中で孤立した行動をとる傾向があることを示しているのかとも思われる。

オ 絵の型（テーマ内容）

描かれている個々の人物の動きでなく、全体的テーマを調べた。本結果では、戸外の娯楽・旅行、食事、団らん・TV視聴など一般に家族画に多く見られるものが多かった。

有意差があったのは「スポーツ」「その他のテーマ」であった。「スポーツ」において、男子が高くなっていることから、男子の活動性の高さが反映していると考えられ、女子で「その他のテーマ」が高くなっているのは、男子とは違った家族関係場面を経験していると考えられる。

カ 特殊描画について

空白の顔、後ろ姿、抽象化など特殊な描画は、それぞれ被験者の内面をかなり明らかに象徴するサインと考えられている。今回はまとめて検討したため細部にわたる検討はできないが、男子で「あり」が高いのは、それだけ問題が多いことを示しているとも考えられる。

(2) 性別と短期・長期別のクロス結果の考察

男子においては、「描かれた人物」「テーマ内容」の2項目に、女子では「人物の動き（共同）」「絵の型」の2項目にそれぞれ有意差が見られている。以下、これらについて男女別に考察を加える。

表 52 家庭観尺度と描かれた人物等の関係

		男子		t 値	女子		t 値
		あり	なし		あり	なし	
本人	M	36.20	34.61	1.203	34.66	37.00	-0.874
	S D	5.55	7.00		6.48	4.65	
父	M	36.41	35.51	2.325*	34.79	34.70	0.071
	S D	5.46	5.87		6.55	6.13	
母	M	36.58	33.57	5.423***	34.71	35.05	-0.220
	S D	5.34	6.37		6.69	4.83	
兄弟姉妹	M	36.43	35.10	2.290**	34.35	36.14	-1.598
	S D	5.40	6.16		6.82	4.76	
祖父母	M	36.89	36.09	1.501	34.87	34.75	0.065
	S D	5.93	5.53		5.50	6.54	
その他(人)	M	36.30	36.17	0.212	34.17	34.83	-0.339
	S D	4.93	5.63		7.23	6.35	
その他(動物)	M	36.13	36.18	-0.085	34.09	34.91	-0.541
	S D	5.66	5.57		8.05	6.05	

注1) 無回答は除く。

注2) \*は5%、\*\*は1%、\*\*\*は0.1%水準未満で有意差があることを示す。

表 51 父親に対する親和性尺度の分散分析 (テーマ内容: 男子)

食事	団らん・ TV視聴	戸外の 娯楽・旅行	スポーツ	その他の テーマ	特定できず	F 値・多重比較
N	258	110	318	95	207	173
M	48.00	48.60	49.96	47.28	46.79	45.99
SD	11.19	11.21	10.44	11.35	12.26	11.86

F (5) = 3.621\*\* 戸外>食事, スポーツ, その他のテーマ, 特定できず

注1) 無回答は除く。

注2) \*\*は1%水準未満で有意差があることを示す。

表 53 家庭観尺度と描画順序の関係 (男子)

	本人	父	母	兄弟姉妹	祖父母	その他(人 物・動物)	F 値・多重比較
N	310	409	203	123	26	18	
最初に描かれた人物	M	35.29	36.71	36.21	36.51	36.85	36.94
SD	5.90	5.33	5.46	5.57	6.06	3.70	F (5) = 2.578*
	N	351	119	195	345	39	父, 兄弟姉妹>本人
最後に描かれた人物	M	36.67	34.81	35.81	36.27	36.82	36.25
SD	5.39	5.65	5.72	5.50	6.54	5.10	F (5) = 2.303*
							本人, 兄弟姉妹, 祖父母>父

注1) 無回答は除く。

注2) \*は5%水準未満で有意差があることを示す。

表 54 家庭観尺度と大きさ順序の関係 (男子)

	本人	父	母	兄弟姉妹	祖父母	その他(人 物・動物)	ほぼ同じ 大きさ	F 値・多重比較
N	70	99	49	27	3	3	852	F (6) = 2.883**
最大に描かれた人物	M	35.27	36.73	35.51	34.41	26.33	33.33	36.34
SD	4.56	5.40	5.25	5.68	9.45	7.64	5.62	本人, 父, 母, 兄弟姉妹, ほぼ同じ>祖父母

注1) 無回答は除く。

注2) \*\*は1%水準未満で有意差があることを示す。

表 55 家庭観尺度と本人の表情との関係 (男子)

	快	不快	特定 できず	顔が描か れていない	うしろ向き	F 値・多重比較
N	451	36	434	25	142	F (4) = 3.783**
M	36.91	34.86	35.59	35.92	36.24	快>不快, 特定できず
SD	5.36	5.55	5.88	6.17	4.70	

注1) 無回答は除く。

注2) \*\*は1%水準未満で有意差があることを示す。



ア 男子

短期群では父母像を描く率が高く、また、「戸外の娯楽・旅行」というテーマの絵を描く少年が多いのに対し、長期群では父母像を描く割合が低く、「戸外の娯楽・旅行」をテーマにした絵も少ないという結果であった。

当然のことであるが、家族画を解釈する際には、誰を描いたかということは重要なチェック項目である。日比（1986）によると、人物像の抹消や省略は、他の家族成員と同一場面に置き難いほどの敵意や攻撃、不安などの否定的感情を抱いている人物に関して生じるとされる。逆に、本当ならばいないはずの人物（例えば、亡くなった祖父母や生き別れた親など）が描かれた場合は、その人物への愛着の強さを感じることができる。

少年にとって、「両親」は家族を構成する上で重要な存在であり、それが長期群において描かれる率が少ないというのは、短期群よりも家族関係に何らかの問題を抱えている可能性が高いと考えられる。もちろん、長期群は短期群に比べて実父母家庭が少ない（表3参照）という家族形態の違いを考慮すべきであるが、同じ傾向のある女子では有意差が見られていないことを考えると、男子長期群における父母像の描画率の低さは、単に家族形態の差異というよりも、親子関係に起因した問題ととらえることができるのではないだろうか。

また、短期群において「戸外の娯楽・旅行」というテーマが多いのも、実際に、家族で旅行をしたり、一緒に娯楽を楽しむ機会が多いことの表れともとれるが、男子長期群では、

いわば「家族で過ごした楽しい思い出」が少なく、親子間の交流の希薄さを示している可能性もある。

イ 女子

女子の短期群では人物の動きがない描画は少なく、描かれた人物が一つのテーマでまわっている場合が多いのに対して、長期群では人物に動きが見られず、人物がただ並んでいるだけの「並列型」の絵を描く率が高いという結果であった。

家族画でよく描かれるものの一つに、「記念写真」と称して家族全員を一行に描く場合があるが、その場合でも、家族が笑っていたり、肩を組み合うなど、何らかの動きがあるものが多い。しかし、今回の結果では、長期群では、家族がみな「棒立ち」の状態では、何をしているのか分からない絵を描く率が高いということであり、これは、家族としてのまとまり、一体感を持たずにいるものと考えられる。

(3) 性別と保護者別のクロス結果の考察

対象少年の保護者の態様の違いによって、動的家族画にどのような特徴が現れるかを検討する試みである。

ア 描かれた人物等

男女共に保護者が実父母である場合は、父親像母親像を共に有意に高く描き、実父の場合は父親像を有意に高く、母親像は有意に低く描き、実母の場合にはその逆の結果になっている。これは、実生活そのものを素直に表現したと考えられるが、父親あるいは母親としてのモデルが大切なことを示唆しているのではなからうか。

表56 家庭観尺度と本人像の配置の関係（男子）

	左上	右上	左下	右下	中央特定できず	F値・多重比較
N	53	56	123	107	304	445
M	35.34	37.21	36.89	35.60	36.78	35.75
SD	6.50	4.85	5.02	5.89	5.18	5.76

注1) 無回答は除く。

注2) \*は5%水準未満で有意差があることを示す。

保護者が義父母等の場合に、男女共に母親像を描く率が有意に低く、他の人物を描く率が高いという結果であった。本研究では「義父実母」「実父義母」など、実父母や片親以外の場合を「義父母等」と一つのカテゴリーでまとめているが、割合としては母親が実母である場合が多い。通常は、家庭の中で血縁関係にある母親像を描く率が高くなると考えられるが、今回はそれとは逆の結果となっている。義理の関係にあるために家族関係が複雑になり、さまざまな感情が交差する中で、最も身近な存在である母親だからこそネガティブな感情が向けられやすいということを示しているのではなからうか。その代償として他の人物を描き、心理的安定を得ようとしているように思われる。

#### イ 描画順序（最初・最後に描かれた人物）

ある人物を最初に描くことの意味は、その人物に関心があるとか、重視しているなどの意味があると思われる。男子の場合にのみ有意な結果が得られたので、男子に限って考察する。保護者が実父母の場合に、最初に父親像を描く率が高く、母親像を描く率は低い。これは、男子少年が自らの家庭について、自分のモデルとしての父親を中心に考えていることの象徴ではなからうか。

保護者が実母の場合に、父親像を最初に描く率が低く、母親像、本人像、兄弟姉妹像を描く率が高い。父親の欠ける家庭では、母親や自分を含んだ子供が、中心にならざるを得ない実態を示している。

保護者が義父母の場合には、祖父母やその他の人物・動物を描く率が高くなっていて、祖父母の役割に期待しているか、その他の人物で不安定な感情を安定させようとするメカニズムが働いているのかもしれない。

最初と最後に描かれた人物をそれぞれ比較してみると、男子の場合に保護者が実父の場合に、父親像を最初に描く率が高く、母親像は低くなり、最後に描く率も同じ結果を示し

ている。保護者が実母の場合には、母親像を描く率が高く、父親像を描く率が低くなっている。この結果から考えられることは、男子少年は実父の場合に父親像を最初に描くか逆に最後に描くか両端に分かれ、父親に対する両価的な感情を示していると考えられる。保護者が実母の場合は更に複雑であり、母親像を最初に描くか最後に描くか両極にあり、その上本人像や兄弟姉妹像を最初に描き、家族の中心が分散する傾向が示されている。

#### ウ 大きさ順位（最大に描かれた人物）

日比(1968)は、「動的家族画において関心の高い人物や部分は大きく描かれ、家庭内の社会的・経済的な序列や秩序を意味する」と述べている。

本研究では、男子においてのみ有意差が見られ、実父母が保護者である場合に、本人像を最も大きく描く率が低いという結果であった。これは、両親揃った家庭では、自分自身は家族内の序列として第1位では有り得ないことを意識しているものと考えられる。

実父が保護者である場合には父親像を最大に描く率が高く、実母である場合には母親像を最大に描き、それぞれの家族構成中で経済力のある人物を最大に描いている。

#### エ 本人像からの距離（最も近くに・遠くに描かれた人物）

人物間の距離は心理的な距離と考えられ、近いものが親和傾向を示し、親子の場合は男性女性としての役割取得の対象と考えられる。

男子は最も近く描く場合と最も遠くに描く場合の双方で有意差が見られ、女子は最も遠くに描く場合にのみ有意差が見られた。

男子で保護者が実父母である場合に、父親像を最も近くに描く率が高いと同時に、最も遠くに描く率も高くなっている。これは、男子少年にとって、父親は男性としてのモデルであると共にエディプスコンプレックスの対象でもあることによるのではなからうか。

保護者が実母の場合には、父親像を最も近くに描く率も遠くに描く率も低く、実際に父親が存在しないので、心理的にも中間的な距離になるためと考えられる。

義父母が保護者の場合、祖父母像やその他の人物・動物像を最も遠くに描くことは、義理の親子関係の中で祖父母と親密な関係を結ぶことが難しいことを示しているのであろうか。

女子では、保護者が実父母の場合に父親像を最も遠くに描き、実母の場合に兄弟姉妹像を遠くに描く率が高く、父を遠くに描く率は低い。父親が家庭に実在するときは、父親との親密さを意識せず、父親が無い時には兄弟姉妹との心理的距離が近くなると言えようか。

保護者が義父母の場合は男子と同じである。

#### オ 色彩(使用した色・不自然な色彩)

描画における色の使用は、被験者の内面的感情状態を象徴するものと考えられている。本研究では12色の色鉛筆を使用させているので、さまざまな色使いをする可能性がある。有意差のあった項目は、保護者が実父母の場合の女子で、黒一色で描くものである。部分的に黒く塗りつぶす場合はその部分に対する強い関心や不安などを示し、全体を塗る場合は衝動をコントロールする試みとも言われる(Burns, R. C.)。

不自然な色使いは、男子で保護者が実母の場合に有意差があり、母親との関係で複雑な感情を持つことがうかがえる。

#### (4) 性別と両親に対する親和性のクロス結果の考察

##### ア 描かれた人物等

描画の読み取りについて青木(1986)は、描画には単に現状のみ現れるものではない点をあげている。つまり描かれる可能性としては、現実としての親の像を何らかの形で描き

出すのみならず、存在しない親の像を描き出すことも考えられる。

男女共に、父親像を描いている群の方が、父親を描いていない群より、父親に対する親和性が有意に高い。表28に示したとおり、男女とも、実父が保護者として存在する場合には、9割以上が描画しており、実母のみが3割前後、義父母等は7割以上が父親像を描いていることから、描画上の父親像は、実在する父親に対応していると考えられ、家族間において父親を重要な存在であると認知し、父親に対する親和感を抱いていると解釈することができる。

また、男女共に母親像を描いている群の方が、母親像を描いていない群より、母親に対する親和性が有意に高いことが示されている。女子においては、父親像を描いた群より描かない群の方が母親に対する親和性が高い結果が特徴的である。即ち、父親が実生活上又は心理的に存在しない時は、母親に対する親和性がより強くなることが推測される。「研究(その1)」の親和性尺度の分析で、実父母と実母のみの保護者の場合は、その他の保護者の場合と比較して、母親に対する親和性が有意に高いことが示されていて、動的家族画の結果と一致している。

##### イ 描画順序

日比(1986)は人物画の描写順序について、「家族内の日常的序列や役割を知るための参考にすることができる」と述べている。

男子において、父親像を最初に描いた群は、本人像、母親像、兄弟姉妹像を描いた群よりも、父親に対する親和性が有意に高くなっている。この結果は、父親が家族の中で大きな影響力を持ち、親和する対象であることを示している。一方、最後に父親像を画いた場合には、父親に対する親和性が低い結果となっている。

日比(1986)によると、本人像を最後に描くことは、自らの謙虚さや被保護者であると

いう自己意識を示すとしている。

本研究では、父親と母親に対する親和性について男子のデータを見ると、父親像又は母親像を最後に描いた場合よりも、本人像を最後に描いた場合の方が、父親母親に対する親和性尺度得点が高くなっている。この結果と上記の日比の解釈との関連を考えると、少年は家庭内での序列をある程度客観的にとらえるとともに、保護される存在であると感じている状況に対して、親和的態度を示すことによって適応しようとしていると考えられないだろうか。

#### ウ 大きさ順位（最大・最小に描かれた人物）

人物像の大きさについて、日比（1986）は、対人認知の様相を示し、人物描画の基本的な特徴であるとして、大きいほど家族内における重要度が高く、心理的影響力が強いと考えている。また、小栗（1989）は描画において最も大きく描かれたのは父親像であることを示している。

父親像を最大に描いた群は、本人像、母像、兄弟姉妹像、祖父母像を最大に描いた群よりも父親に対する親和性尺度得点が高いことから、家族内における父親の存在意義の大きさを認識するとともに、親和傾向と人物の大きさは正比例の関係にあると捉えることができよう。

男子が同性の父親像を大きく描く場合は、父親への親和性の発露であると共に、男性モデルとして受け入れていることの表れと考えられる。

最小に描かれた人物は、家庭内での重要度が低く、不全感の存在を示すと考えられる。今回の調査の場合、ほぼ同じ小ささと判定される群が多く、その小さい像が誰というデータがないため積極的な解釈は控える。

#### エ 本人像からの距離

本人像からの距離に関して、Howard&Thompson(2000)は、重要な人物の隣に自己像を描くとしており、その人物の注目を浴び

たいという欲求の現れであるとする。また、日比（1986）は、人物像間の距離は、親密性の度合いを示すものとしている。また、加藤（1977）は、幼稚園児と小学校児童の男子を対象とした研究の結果、陰性感情を示すものは対母親間との距離を取ることを、陽性感情を持つときは、比較的近い距離を取ることを数量的に示している。今回の結果は、非行少年に対しても同様の傾向があることを示している。

すなわち、男子において父親像を最も近くに描いた群は数としてはそれほど多くはないが、母親像、兄弟姉妹像、その他（人物・動物）を描く群よりも、父親に対する親和性尺度得点が高いことが示され、描画順序、大きさ順位の知見とも一致する。

母親像を本人像の最も近くに描いた群は、父親像の場合と同じく、数としては少ないが、母への親和性尺度得点は高くなった。

#### オ 本人像の表情

家族で何かをしている場面において、本人の表情は心の動きを表し、体全体の動きを補足するものとして捉えることができるであろう。本人の表情が「快」の群は、それ以外の群よりも、両親に対する親和性尺度得点が高い結果となった。単純に快感情が示されている場合は親和していると考えてよいであろう。

#### カ 本人像の配置

男子の場合、本人像の位置については、右上、右下、中央に描かれているものは、特定できない群よりも、父親に対する親和性尺度得点が高い結果となっている。C.コッホ（1970）のバウムテストに関する著書の中で、林らは「空間の右側は外向、行為、父、男、未来等を、左側は内向、内省、母、女、過去を意味する」と述べている。本研究では、本人像をほぼ右側に描いた群は、父親に親和しているという結果であり、この林らの説に符合している。同様に、本人像の位置が右下に

あるよりも、中央・左下にある方が、母親に対する親和性が高いという結果についても、左側が母親に対する感情を表す領域を示すという点で林の説と一致する。

いずれにしても本人像の位置と親和性の関係が空間象徴と重なることは非常に興味深く、今後詳細な検討の余地がある。

#### キ 人物の動き（共同）

斎藤（1989）は、非行少年を対象とした動画的家族画の研究から、男子の場合は、家族が何か一緒にしている描画は、親に対して親和し、父親への依存性が認められることを指摘している。

本研究で人物の動きについては、全員が同一の動き、2人以上が同一の動きと判定された群は、全員がバラバラな動きとされた群よりも、父親に対する親和性尺度得点が高いという結果であり、斎藤の意見と一致している。

#### ク 絵の面積

絵の面積について、男子の場合は、絵の面積が用紙の4分の1より大きいものは、4分の1以下のものに比べて、父親・母親共に親和性が高い結果となっている。

一般に、用紙に対して極端に小さい絵を描くのは、外界からの圧力の大きさや、エネルギーの乏しさが考えられる。家族を描く際にA4の画用紙の4分の1も使用できないというは、やはり家庭や家族との関係に何らかの問題がある可能性が大きく、4分の1より大きい絵を描いた群の方が父親・母親共に親和性が高いという今回の結果は首肯できる。

#### ケ 絵の型（テーマ内容）

男子において、戸外の娯楽・旅行の群は、食事、スポーツ、その他のテーマ、特定できない群よりも、父親に対する親和性尺度得点が高い結果となっている。戸外での活動を描く方が、父親を中心とした家族間の交流が活発であることを示唆している。

#### （5）性別と家庭観のクロス結果の考察

#### ア 描かれた人物等

男子の父・母・兄弟姉妹像についてののみ有意差が見られ、いずれも、「あり」群が「なし」群よりも家庭観尺度得点が高いという結果であった。

これは、父母像の有無は、単に実際の家庭構成を反映しているだけではなく、やはり自らの家庭観に左右されることを示しているものといえる。すなわち、まだ成長過程にある少年にとって、親は家族を構成する上で非常に重要な存在であり、父母像が描かれないということは、自分の家庭に何らかの否定的な感情を抱いている可能性が大きいといえる。

次に、兄弟姉妹像について考えてみる。今回の対象少年の詳しい家族構成（兄弟姉妹・祖父母がいるかどうか等）については調査項目としなかったため、実際の兄弟姉妹の有無を踏まえた上での検討は行えないものの、近年日本の少子化傾向をみると、兄弟姉妹がいない、一人っ子の少年が増えていると思われる。家族の中に、親とは違う、より自分に近いものの見方、価値観を持った存在がいるかどうかということは、家庭への帰属意識、一体感を左右するものと考えられ、それが、今回の結果に反映したものと推察される。

なお、女子については、すべての項目について有意差が見られなかった。また、男子の場合、有意差が見られないにしても、「その他（動物）」を除くすべての項目について、「あり」群が「なし」群よりも家庭観尺度得点の平均値が高いのに対し、女子においては、各項目によってまちまちであった。これは、特に女子においては、描画の特徴と質問紙から見た家庭観が必ずしも一致しないことが多いということを示しているものと考えられる。もともと、動的家族画というイディオグラフィックな接近方法と、質問紙のようなノモセティックな方法は、相互補完的なものであり、それゆえ、本研究にもその両方の接近法を取り入れたのであった。したがって、両者

の結果が一致しないということは十分にあり得ることであり、それが何を意味するかが重要なポイントであろう。一般に女子少年の場合、全体的な傾向として、明るく、コミカルで、いわゆるマンガ的な描画が多い。そうした傾向が、男子よりも現実から一步離れた描画になりやすく、家族の日常場面というよりも、日頃抱いている家族への願望がより鮮明に表れることとなり、質問紙法との差異となっているのではないだろうか。

#### イ 描画順位（最初・最後に描かれた人物）

一元配置分散分析及び多重比較の結果、男子では、最初に描かれた人物が本人像の場合、父親像、兄弟姉妹像を最初に描くよりも家庭観尺度得点の平均値が有意に低かった。また、最後に描かれた人物においては、父親像を最後に描いた場合、本人像、兄弟姉妹像、祖父母像を最後に描くよりも有意に低いという結果であった。

日比（1986）によれば、特に適応上の問題を有していない被験者の多くは、父親像を第1位に描くものであり、人物像の描写順位には、家族内の日常的序列が的確に反映しているという。つまり、最初にまず「自分」を描くということは、「家族の中で自分が一番」といった気持ちの表れであり、日常場面で親に甘やかされ、自己中心的な構えが強まっていることが考えられる。

しかし、今回の研究対象者のうち、男子の平均年齢は17.10歳（「研究（その1）」表1参照）であり、年齢的には青年期中期のころにある。同性の親である父親の権威を否定し、自己主張を強めていく時期でもあり、こうした青年期中期の心性が表現されているともとらえることができる。いずれにしても、「自分」をまず先に描く場合、家庭観尺度得点には有意に低いという結果であり、少年が家族内で自分が中心であると感じている（主張している）としても、そうした自らの家庭を必ずしも肯定的にとらえているわけではないということ

が分かる。

また、最後に同性の親である父親像を描いた場合も、家庭観尺度得点の平均点が有意に低かった。描画順序が家庭内の日常的序列を表す場合が多いとすると、「父親」の権威が低い、いわば「父親不在」の家庭では、少年は家庭を肯定的にとらえられないということになる。青年期中期の少年にとっては、同性の親である「父親」は越えるべき存在ではあるが、自分のモデルとして、目標となるべき存在でもあり、家族内での「父親のあり方」が、家庭観の有り様を左右するものと考えられる。

#### ウ 大きさ順位（最大に描かれた人物）

祖父母像を最大に描いた者は、他の人物像を最大に描いた者や、みなほぼ同じ大きさに描いた者よりも、家庭観尺度得点の平均値が有意に低いという結果であった。

日比（1986）は、「肯定的にしろ否定的にしろ、関心の大きい人物や身体部分が大きく描かれてくる。そして、このような仮説は年少者に限らず、相当の年齢に達している被験者においても、なお、有効な臨床的指標となり得る」と述べている。

核家族化が進み、祖父母同居という家庭が減少しつつある中で、家庭内における祖父母の権威は揺らぎつつある面があろう。それにもかかわらず、祖父母像を最大に描く、すなわち、「祖父母」に最大の関心を寄せるというのは、逆に「父母」の力のなさ、頼りなさを示している可能性があるのではないだろうか。だからこそ、祖父母を最大に描く少年の家庭観尺度得点には有意に低く、家庭を肯定的にとらえられない結果となったと考えられる。

#### エ 本人像の表情

本人の表情が「快」の場合、「不快」「特定できず」に分類された者よりも、家庭観尺度得点に有意に高かった。本人や描かれた家族の表情というのは目に付きやすく、意識的に

描かれやすい部分ではあるが、今回の結果は描画の特徴を家庭観尺度が裏付ける結果であった。男子においては、家族画を描く際、防衛的な構えはあまり影響しないといえるかもしれない。

#### オ 本人像の配置

本人像の位置が「特定できない」少年が、左下、中央に描いた少年よりも、有意に家庭観尺度得点の平均が低いという結果であった。しかし、この「特定できない」に分類された描画は全体の40.9%もあり、この結果からは、本人像の位置と家庭観の関係を述べることは難しいが、単純に平均点だけを並べると、得点の一番高いのが右上で、逆に一番低いのが左上となっている。

日比（1986）によれば、上方に位置して描かれる人物像は、家族内での王様やリーダーとしての役割を描画者によって与えられているが、しばしば“浮き上がってしまった”状態を意味することもあるという。また、左右方向については、右側は、外界への関心や活動性と、左側は、内閉性や沈滞感と関連するという。

今回の結果からは、右上、左上の両者に有意な関係は見いだせなかったものの、同じ上部であっても、右と左で家庭観尺度得点の平均値にこれだけの違いがあるということは、非常に興味深い。

## 6 まとめ

考察の結果をまとめてみると、男女別に見た場合、男子の特徴は特殊な画を描く者がいることであり、少数であるが対人関係などで著しい問題を持っている少年がいることが推察される。

女子においては、自己像の描画率の低さや、一人のみの動きが多いといった特徴から、家庭内で自己主張する場が少ないことが示唆され、また、動物を描く率が高い点から、身の

回りを飾ろうとする傾向や接触欲求の強さがかがわれた。この文脈で解釈すると、快感情を表した自己像が多いことも、実感情というよりは、明るくありたいという願望の現れと考えるべきかと思われる。

短期・長期別に見た場合は、男子長期群で父母像を描く率が低いことから、家庭関係に何らかの問題を抱えている可能性があり、女子長期でも家族が棒立ちになっている描画を描く率が高く、家族としての一体感を持ってないことが示されている。

保護者別に見た場合は、ほぼ実生活の家族関係を描く傾向が認められるが、保護者の態様に対応する形で、「最初に」「大きく」「近く」描き、家庭関係を示唆する結果を示している。

親和性尺度得点と各項目とのクロスの結果では、両親像を描いている場合は、両親に対する親和性が高く、「最初に」「最大に」「近くに」描いた場合も親和性が高い。また、「快感情」を示し、「面積を大きく」「家族と一緒に」「戸外の娯楽や旅行」している絵を描いた場合に親和性が高いという結果になっている。

家庭観とのクロスでは、本人像を最初に描く場合、父親像を最後に描く場合、祖父母像を最大に描く場合、本人像を描く位置が特定できない場合等には家庭観尺度得点が高い。本人像の表情が「快」の場合は家庭観尺度得点は高くなっている。

本研究は全国の少年院に在院する少年を対象としてデータを収集しているため、データ数は非常に多くなり、統計処理ができるというメリットがある一方、実施上の制約から臨床場面で行われる描画についての質問による内省報告が聞けないなどの欠点がある。

また、家族関係の研究といたつづ、統計処理の都合で、兄弟姉妹や祖父母などを一括していることも、考察の幅を狭くする要因になっている。

家族画についての数量的検討は、「個別的資料としての臨床的意義を探索する際のガイド

ラインとしての意味をもつにしかすぎない」と位置付ける研究者もいるが、本研究の持つ意味は、もう少し積極的な結果を示していると考えている。

その理由としては「2 調査目的」で述べたように、動的家族画の結果と質問紙法による親への親和性と家族観についての結果をクロスして考察を試み、ジャンルの異なる心理測定法の相互関係について、新しい知見を得ているからである。

本研究で収集した多数の動的家族画は貴重な資料であり、映像としてCDに保存しておくこととした。今後、別の角度からも分析を加えることも可能であり、他の研究者の利用に供することも考えられる。

最後になりましたが、今回、本研究の実施に当たり、調査に御協力を賜った法務省矯正局と少年院の各位、さまざまな御教示を頂いた小栗正幸氏に対して、心から謝意を表します。

## 引用文献

- 斎藤俊郎 「家族画の多角的分析について」  
家族画ガイドブック 1989 矯正協会346  
-364
- 青木健次 「バウムテスト」 臨床描画研究  
I 1986 金剛出版 68-86
- Howard&Thompson (加藤孝正・神戸誠  
訳) 学校画・家族画ハンドブック 金剛出  
版 2000
- 日比裕泰 動的家族描画法(K-F-D)一家族画  
による人格理解一 1986 ナカニシヤ出版
- C.コッホ(林勝造, 国吉政一, 一谷彊訳) バ  
ウム・テスト 1970 日本文化科学社
- 小栗正幸 「動的家族画による非行・犯罪者  
の研究3-若年受刑者の家族イメージ(1)  
回想動的家族絵画法の試み一」 矯正職務  
研究31号 1989 名古屋矯正管区 34-42
- 加藤孝正 「動的家族描画と家族像への態度  
と関連性」 芸術療法 Vol.8 1977 33  
-38



(資料)

1 性別により有意差が得られた項目の描画例

図1 男子の描画



- 項目: ①本人が描かれている  
 ②本人表情が「特定できない」  
 ③テーマが「スポーツ」  
 ④特殊描画(「後ろ姿」)

図2 女子の描画



- 項目: ①本人が描かれていない  
 ②人物の動き「ひとりのみ」  
 ③テーマが「その他」

## 2 短期・長期別により有意差が得られた項目の描画例

## (1) 男子少年

図3 短期処遇少年の描画



- 項目: ①父親像あり  
②母親像あり  
③テーマ「戸外の娯楽」

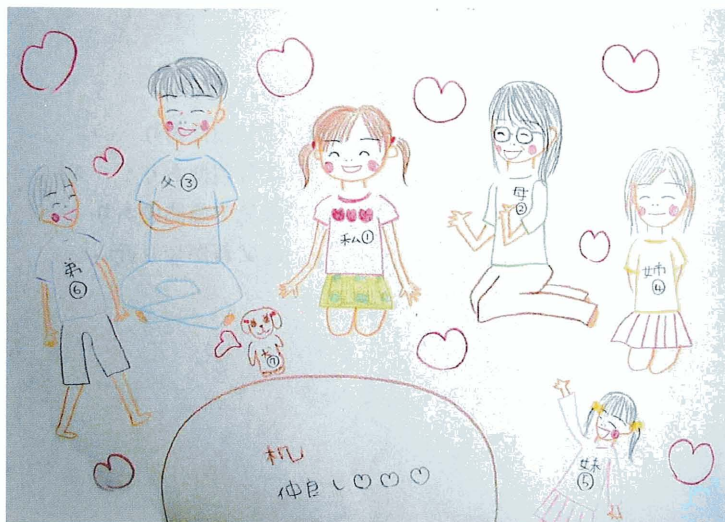
図4 長期処遇少年の描画



- 項目: ①父親像なし  
②母親像なし

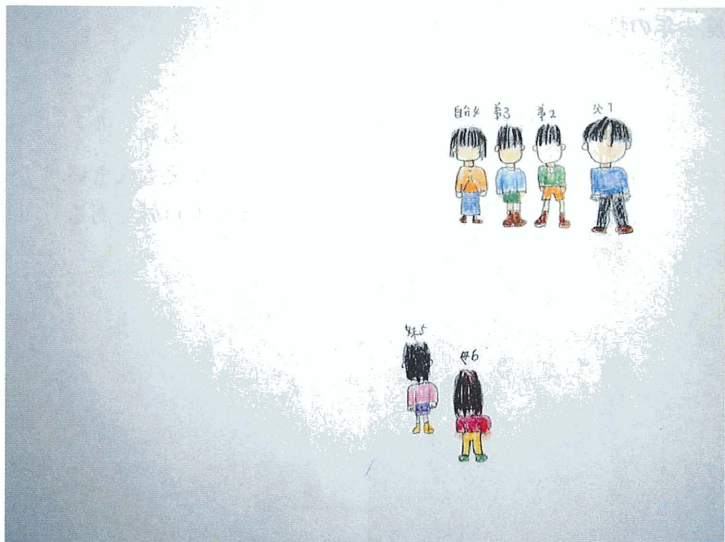
(2) 女子少年

図5 短期処遇少年の描画



項目: ①絵の型「テーマ型」

図6 長期処遇少年の描画



項目: ①絵の型「人物並列型」  
②人物の動きなし



## 3 保護者態様により有意差が得られた項目の描画例

## (1) 男子少年

図7 実父母家庭少年の描画



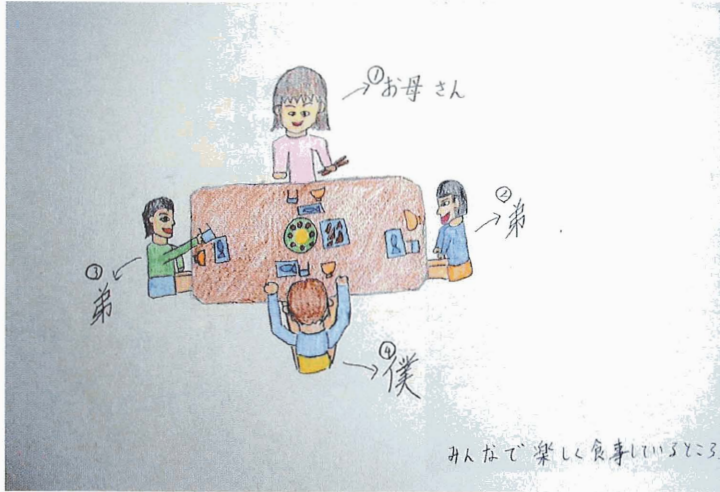
- 項目: ①父親像あり  
 ②母親像あり  
 ③兄弟姉妹像あり  
 ④父親が最も近い

図8 実父家庭少年の描画



- 項目: ①父親像あり  
 ②父親が最も大きい  
 ③場所が戸外である

図9 実母家庭少年の描画



- 項目: ①母親像あり  
②母親が最も大きい  
③場所が室内

図10 義父母家庭少年の描画



- 項目: ①他の人物像あり  
②兄弟像が最も大きい

(3) 女子少年

図11 実父母家庭少年の描画



- 項目: ①父親像あり
- ②母親像あり
- ③黒一色

図12 実父家庭少年の描画



- 項目: ①父親像あり

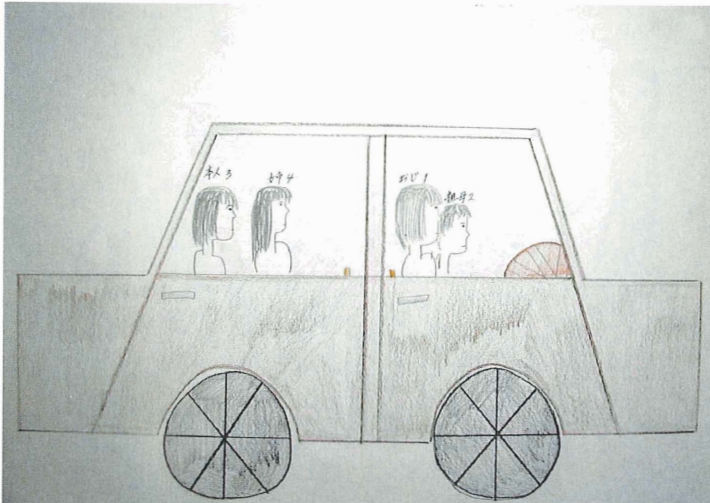


図13 実母家庭少年の描画



項目: ①母親像あり

図14 義父母家庭少年の描画



項目: ①他の人物像あり